

日本における中国科学技術人材の活躍状況調査

報告書

平成 19 年 11 月

独立行政法人科学技術振興機構

中国総合研究センター 編

注：本調査は平成16年度から18年度にかけて実施した、JST-GRIPS-NISTEP 連携プロジェクトにおいて、政策研究大学院大学への委託に基づき作成した報告書の抜粋です。

目次

第1章 本調査の概要.....	1
第2章 機関アンケートに基づく分析.....	4
第3章 個人アンケートに基づく分析.....	9
1. 有効回答者の属性（国籍や所属機関など）.....	9
2. 日本での研究活動を選択した理由.....	15
3. 研究活動の契機となった制度や枠組み.....	17
4. 研究活動について良いと感じられる点.....	18
5. 来日後の日本に対する認識の変化.....	20
6. 研究活動について負担に感じられる点.....	25
7. 日本での研究活動を継続する可能性.....	27
8. 外国人の活躍を促進するための方策.....	31
第4章 個人アンケートからの導出結果.....	38
第5章 クロス分析に基づく詳細評価.....	41
1. 役職を評価指標としたクロス分析.....	41
2. 年齢を評価指標としたクロス分析.....	56
3. 出生地を評価指標としたクロス分析.....	76
第6章 活動実態の総合評価.....	87
1. 基盤データとしてのポイント.....	87
2. 基盤データとしての妥当性.....	91
あとがき.....	93

第1章 本調査の概要

近年目覚ましい発展を続ける中国は、経済はもとより科学技術の面でも世界に大きな影響をもたらす存在となっている。中でも中国人科学技術人材の活躍は目覚しく、グローバルな規模で研究開発や事業開発に貢献する人材として認知されるようになってきた。こうした流れの中で日本は今後中国科学技術界との連携を深めることがますます重要度を高める一方、日本国内における中国人科学技術人材に優れた研究環境を整備または提供し、彼らが日本で活躍できるよう環境を整備していくことも今後の重要な政策課題となっている。このためには、まず現在日本にいる中国人科学技術人材の現状を把握することが前提となろう。

上記の背景を踏まえ、「JST・NISTEP・GRIPS ジョイントプログラム：アジアの科学技術政策動向に関する調査研究」の一環として、平成16年度から3年計画で、「日本における中国科学技術人材の活躍状況調査」を計画。実施には独立行政法人科学技術振興機構（JST）が政策研究大学院大学（GRIPS）へ委託し、科学技術政策研究所（NISTEP）がプロジェクトに参加する形式でスタートした。また、（株）日本総合研究所は一部作業を請負った。

本調査は、日本における中国科学技術人材の活躍状況を詳細に把握し、科学技術人材を取り巻く日本の環境を評価することを重視している。さらに、日本の大学、公的研究機関、民間企業の中で、中国をはじめとする外国人科学技術人材がその力を発揮するための方策を検討することを目的としている。

このため、第一年度である平成16年度には、統計データの分析と国内の関連機関へのヒヤリングなどを行い、日本における中国人科学技術人材の活躍状況の概要を把握した。

また、第二年度である平成17年度には、実際に日本で活動している中国人科学技術人材を対象としたアンケートを実施し、より詳細な状況把握を図った。

具体的には、国内の大学・大学院、公的研究機関、民間企業を対象とする「機関アンケート」を行い、各機関による外国人科学技術人材の雇用の有無を確認した上で、中国人科学技術人材を中心とした「個人アンケート」を行い、日本における活躍状況の詳細を分析した。

アンケートを通じ把握した主な事項をまとめると、次のようになる。

- ・ 日本での研究活動を選択した理由
- ・ 日本での研究活動を始めた制度や枠組み

- ・ 日本での研究活動について、良いと感じられる点
- ・ 来日前と比較した場合の、日本に対する評価の変化(良くなったか、悪くなったか)
- ・ 日本での研究活動について、負担に感じられる点
- ・ 日本での研究活動を継続する可能性 (将来のキャリアパスの考え方)
- ・ 外国人研究者が活躍しやすい環境づくりのための方策

さらに、第三年度となる平成18年度は、アンケートにより得られた結果を回答者の属性に基づくクロス分析などを通じ多面的な評価指標として整理・編集することで、「日本での中国科学技術人材の拡大」のための方策検討に役立つ基盤データとして取りまとめた。

そのために、第一に、平成17年度のアンケートで得られた「中国人科学技術人材による回答」の特徴を、「役職」を組み合わせた3つの評価指標を用いて比較分析した。

- ・ 評価指標①：中国人科学技術人材全体を対象とした場合
- ・ 評価指標②：中国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合
- ・ 評価指標③：中国人科学技術人材で、役職が「ポストドクター」に該当する人を対象とした場合

第二に、年齢別回答の特徴を把握するため、4つの評価指標を用いて比較分析した。

- ・ 評価指標①：中国人科学技術人材で、年齢が「29歳以下」の人を対象とした場合
- ・ 評価指標②：中国人科学技術人材で、年齢が「30歳～39歳」の人を対象とした場合
- ・ 評価指標③：中国人科学技術人材で、年齢が「40歳～49歳」の人を対象とした場合

- ・評価指標④：中国人科学技術人材で、年齢が「50歳以上」の人を対象とした場合

その上で、第三に、「中国人科学技術人材」に加え、日本在住者の割合が中国人科学技術人材に次いで高い「韓国人科学技術人材」や「米国人科学技術人材」も対象とした追加アンケートを実施し、「中国人科学技術人材の回答から導き出された“活躍状況の特徴”」を、「出生地」と「役職」を組み合わせた4つの評価指標を用いて検証した。

- ・評価指標①：「中国人科学技術人材」で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合
- ・評価指標②：「中国人科学技術人材」で、役職が「ポストドクター」に該当する人を対象とした場合
- ・評価指標③：「韓国人科学技術人材」で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合
- ・評価指標④：「米国人科学技術人材」で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合

機関アンケート及び個人アンケートを通じ把握した「日本における中国人科学技術人材の活躍状況」に関する検討結果の詳細を、以下各章にまとめる。

第2章 機関アンケートに基づく分析

本章は、平成17年度に実施した機関アンケートの結果をまとめる。機関アンケートは国内の大学・大学院、公的研究機関、民間企業を対象として実施し、各機関による外国人科学技術人材の雇用の有無について確認した。アンケート調査票の送付先として、下記基準に従い、1,093機関を抽出した。

・大学・大学院：235機関

自然科学系博士課程を有する大学、自然科学系の研究を行う大学附置研究所、自然科学系の研究を行う大学共同教育研究施設、大学共同利用機関を対象とした。

・公的研究機関：63機関

自然科学系の研究開発を行う独立行政法人、省庁直轄研究機関、特別認可法人、特殊法人を対象とした。

・民間企業：795機関

「全国試験研究機関名鑑 2004-2005(文部科学省監修、LATTICE社)」に記載されている東京証券取引所一部上場企業の内、自然科学系の研究開発実施企業を対象とした。

回答結果を整理すると、以下のようになる。

a. 有効回答の機関別内訳

前述の1,093機関に調査票を送付した結果、391機関からの回答(回答率:35.8%)が得られ、この内の有効回答が369機関(有効回答率:33.8%)となった。有効回答の機関別内訳をまとめると、次のようになる。

・大学・大学院：121機関(51.5%)

・公的研究機関：35機関(55.6%)

・民間企業：213機関(26.8%)

以下の分析は、上記の有効回答を対象として行った。

b. 中国人科学技術人材の雇用の有「中国人科学技術人材の雇用の有無」について質問したところ、「雇用している」と回答した機関の割合は、大学・大学院が全体の70%、公的研究機関が49%、民間企業が12%となった(図表1)。今回の回答に従えば、日本

の場合、民間企業による中国人科学技術人材の雇用割合が低いことになり、彼らの活動の場が大学・大学院や公的研究機関に限定されている状況が示唆される。

図表1 アンケート回答機関における中国人科学技術人材の雇用の有無

(単位:人)

	大学・大学院		公的研究機関		民間企業		合計	
	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%	人数	割合%
「雇用あり」機関数	84	69.4%	17	48.6%	25	11.7%	126	34.1%
「雇用なし」機関数	37	30.6%	18	51.4%	188	88.3%	243	65.9%
合計	121	100.0%	35	100.0%	213	100.0%	369	100.0%

c. 外国人科学技術人材の機関別割合

本アンケートでは、機関毎の全研究者数、外国人研究者数、中国人研究者数、韓国人研究者数、米国人研究者数などについて質問した。回答結果から、中国人科学技術人材の占める割合を機関別に比較すると、次のような結果が得られる。

①大学・大学院

大学・大学院の場合、外国人科学技術人材の全体に占める割合（図表2における全研究者に占める外国人研究者の割合）は3.1%となっている。また、外国人科学技術人材に占める中国人、韓国人、米国人科学技術人材の割合（外国人研究者に占める中国人、韓国人、米国人研究者の割合）は、それぞれ31.7%、15.6%、14.1%となっている。外国人科学技術人材の中で、中国人科学技術人材の占める割合がかなり高くなっている現状が見てとれる。

図表2 アンケート回答機関(121機関)における研究者の構成<大学・大学院>

(単位:人)

分野	全研究者		外国人研究者		中国人研究者		韓国人研究者		米国人研究者		
	人数	内、女性	人数	内、女性	人数	内、女性	人数	内、女性	人数	内、女性	
科学技術 に関連	理学	4,405		80		28		13		4	1
	工学・理工学	14,881	588	540	57	244	32	69	5	32	7
	農学	3,076	223	54	11	18	8	12	3	0	0
	医学・歯学	13,420	2,256	158	31	59	19	41	5	5	0
	薬学	1,119	186	17	6	8	2	4	2	1	1
	上記の複合領域	1,243	107	53	9	18	4	10	1	6	0
	その他自然科学	1,379	135	52	7	19	2	7	1	6	1
「科学技術に関連」以外	16,232	2,784	766	223	152	58	112	39	189	35	
合計	55,755	6,532	1,720	354	546	129	268	58	243	45	

外国人、中国人、韓国人、米国人の割合

項目	人数(人)	全研究者に占める割合(%)	外国人研究者に占める割合(%)
全研究者	55,755		
外国人研究者	1,720	3.1	
中国人研究者	546		31.7
韓国人研究者	268		15.6
米国人研究者	243		14.1

②公的研究機関

一方、公的研究機関の場合、外国人科学技術人材の全体に占める割合は5.6%であり、中国人、韓国人、米国人科学技術人材の割合はそれぞれ42.4%、13.5%、3.4%となっている（図表3）。ここでも、中国人科学技術人材の占める割合がかなり高くなっている現状が見てとれる。

図表3 アンケート回答機関(35機関)における研究者の構成<公的研究機関>

(単位:人)

分野	全研究者		外国人研究者		中国人研究者		韓国人研究者		米国人研究者		
	内、女性		内、女性		内、女性		内、女性		内、女性		
科学技術 に関連	理学	1,529	144	133	22	45	13	16	3	7	1
	工学・理工学	2,776	97	183	19	91	14	24	12	6	0
	農学	1,801	221	15	2	3	0	2	0	3	1
	医学・歯学	171	34	14	2	6	0	1	0	0	0
	薬学	22	6	2	0	2	0	0	0	0	0
	上記の複合領域	444	34	27	2	15	1	1	0	0	0
	その他自然科学	85	15	10	0	5	0	0	0	0	0
「科学技術に関連」以外	4,618	1,038	260	62	106	38	43	3	6	0	
合計	11,446	1,589	644	109	273	66	87	18	22	2	

外国人、中国人、韓国人、米国人の割合

項目	人数(人)	全研究者に 占める割合(%)	外国人研究者に 占める割合(%)
全研究者	11,446		
外国人研究者	644	5.6	
中国人研究者	273		42.4
韓国人研究者	87		13.5
米国人研究者	22		3.4

③民間企業

民間企業について見ると、外国人科学技術人材の全体に占める割合は1.6%であり、中国人、韓国人、米国人科学技術人材の割合はそれぞれ73.8%、3.1%、0%となっている（図表4）。やはり、外国人科学技術人材の中で、中国人科学技術人材の占める割合がかなり高くなっていることが確認できる。

図表4 アンケート回答機関(213機関)における研究者の構成<民間企業>

(単位:人)

分野	全研究者		外国人研究者		中国人研究者		韓国人研究者		米国人研究者		
	内、女性		内、女性		内、女性		内、女性		内、女性		
科学技術 に関連	理学	120	16	2	0	1	0	0	0	0	0
	工学・理工学	3,753	337	60	9	45	7	2	1	0	0
	農学	194	77	3	2	2	1	0	0	0	0
	医学・歯学	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	薬学	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	上記の複合領域	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他自然科学	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0
「科学技術に関連」以外	10	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	4,100	436	65	11	48	8	2	1	0	0	

外国人、中国人、韓国人、米国人の割合

項目	人数(人)	全研究者に 占める割合(%)	外国人研究者に 占める割合(%)
全研究者	4,100		
外国人研究者	65	1.6	
中国人研究者	48		73.8
韓国人研究者	2		3.1
米国人研究者	0		0.0

以上の結果から、日本の場合、大学・大学院、公的研究機関、民間企業のいずれにおいても、外国人科学技術人材のかなりの部分を中国人科学技術人材が占めている状況が確認できる。

図表5 アンケート回答機関における外国人研究者の機関別構成

(単位:人)

分野	外国人 研究者	中国人	割合 (%)	韓国人	割合 (%)	米国人	割合 (%)	その他 外国人	割合 (%)
大学・大学院	1,720	546	31.7%	268	15.6%	243	14.1%	663	38.5%
公的研究機関	644	273	42.4%	87	13.5%	22	3.4%	262	40.7%
民間企業	65	48	73.8%	2	3.1%	0	0.0%	15	23.1%
合計	2,429	867	35.7%	357	14.7%	265	10.9%	940	38.7%

d. 外国人科学技術人材の分野別割合

本アンケートでは、外国人科学技術人材の専門分野についても質問した。外国人科学技術人材の占める割合を分野別に比較すると、次のような結果が得られた。

- ①各分野における外国人科学技術人材の割合は、1~5%の範囲となっている。
- ②今回の回答に従えば、農学、医学・歯学、薬学分野の割合が2%以下と相対的に低い値を示すが、その他の自然科学系分野では概ね3%~4%の範囲となっている。
- ③また、人文・社会科学系分野の外国人科学技術人材の割合(図表6の「科学技術に関

連」以外の研究者の割合) についても 5%程度となっている。

図表6 アンケート回答機関における専門分野別外国人研究者の割合

分野		全研究者数	外国人研究者数	外国人研究者の割合(%)
科学技術 に関連	理学	6,068	215	3.54%
	工学・理工学	21,586	783	3.63%
	農学	5,073	72	1.42%
	医学・歯学	13,597	172	1.26%
	薬学	1,150	19	1.65%
	上記の複合領域	1,974	80	4.05%
	その他自然科学	1,484	62	4.18%
「科学技術に関連」以外		20,860	1,026	4.92%
合計		71,792	2,429	3.38%

以上の分析結果を踏まえた上で、機関アンケートの中で「個別の協力に対する了解が得られた外国人科学技術人材」を対象に、平成17年度に引き続き「個人アンケート」を行い、その結果を、次章にまとめる。

第3章 個人アンケートに基づく分析

機関アンケートの中で「個別の協力に対する了解が得られた外国人科学技術人材」を対象とする個人アンケートを実施し、最終的に163人からの有効回答を得た。主なアンケート項目をまとめると、次のようになる。

- ・有効回答者の属性（国籍や所属機関など）
- ・日本での研究活動を選択した理由
- ・研究活動の契機となった制度や枠組み
- ・研究活動について良いと感じられる点
- ・来日後の日本に対する認識の変化
- ・研究活動について負担に感じられる点
- ・日本での研究活動を継続する可能性
- ・外国人の活動を促進するための方策

以下に項目毎の回答状況を整理し、得られた結果から「日本における外国人科学技術人材の活躍状況」を分析する。

1. 有効回答者の属性（国籍や所属機関など）

今回のアンケートでは、日本在住者の数が多い中国籍、韓国籍、米国籍の外国人科学技術人材を対象とした上で、中国人科学技術人材には「中国語の調査票」を、韓国人科学技術人材と米国人科学技術人材には「英語の調査票」をそれぞれ送付している。したがって、返送された調査票の言語から、回答者の国籍を次のようにグルーピングした。

- ・中国語の調査票：中国人科学技術人材による回答
- ・英語の調査票：韓国人または米国人科学技術人材による回答

162名の有効回答者の内訳は、中国語の調査票による回答が122名、英語の調査票による回答が40名となっている。

これらの結果を踏まえ、本節では中国語の調査票による122名の回答を用い、中国科学技術人材の活動実態を詳細に分析した。結果をまとめると、次のようになる。

1. 1 所属機関における役職、雇用形態

(1) 役職

122名の有効回答者の内、大学・大学院または公的研究機関に所属する113人の回答者の役職に着目すると、ポストドクターが49人となり回答者全体の43.4%を占めることが分かる。したがって、この「中国人科学技術人材のみ」を対象とした回答では、ポストドクターの特徴が濃く表われるケースがあると考えられる。

(2) 雇用形態

雇用形態については、任期付き雇用が80人となり回答者全体の65.6%を占める。したがって、この「中国人科学技術人材のみ」を対象とした回答では、任期付き雇用の特徴が濃く表われるケースがあると考えられる。

1. 2 性別、年齢

(1) 性別

性別については、男性が79人(64.8%)、女性が27人(22.1%)となっており、男性の割合がかなり高くなっている。

(2) 年齢

年齢については、「30～39歳」と「40～49歳」の回答者の合計が全体の8割以上を占めた。

1. 3 専門とする研究分野

専門とする研究分野については、ライフサイエンスが22人(全体の18.0%)、情報通信が12人(全体の9.8%)、ナノテクノロジー・材料が40人(全体の32.8%)、環境が20人(全体の18.0%)となる。そのため、「専門分野に基づくクロス分析」も可能であることが示唆される。

1. 4 最終学位及び学位を取得した地域

(1) 現時点での最終学位

「一つの分野で博士を取得した」という回答が全体の8割以上を占めている。

(2) 学位を取得した地域

学位を取得した地域については、中国で取得したケースが71人と全体の58.2%を占めている。

「有効回答者の属性」に関する回答結果の詳細を、以下にまとめて示した。

a. 所属機関における役職、雇用形態

設問：所属機関におけるあなたの役職、雇用形態はどのようなものですか。該当する項目をチェックして下さい。

- (1) 役職 1. 教授 2. 助教授 3. 講師 4. 助手 5. ポストドクター
6. 上記以外（記入：_____）

※「大学・大学院、公的研究機関」のみ回答

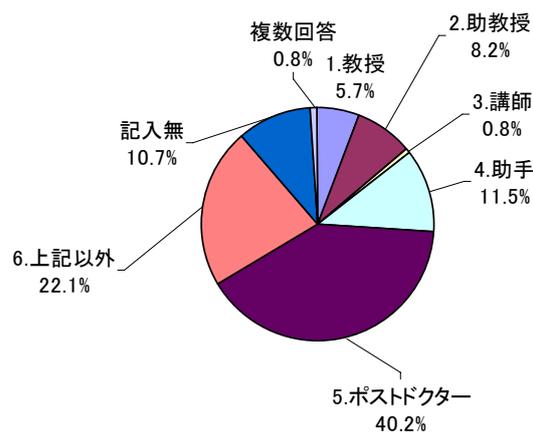
- (2) 雇用形態 1. テニユア（終身雇用） 2. 任期付き雇用
3. 上記以外（記入：_____）

(1) 役職

① 中国人研究者の回答のみ集計

役職	有効回答数(人)	%
1.教授	7	5.7
2.助教授	10	8.2
3.講師	1	0.8
4.助手	14	11.5
5.ポストドクター	49	40.2
6.上記以外	27	22.1
記入無	13	10.7
複数回答	1	0.8
合計	122	100.0

N=122

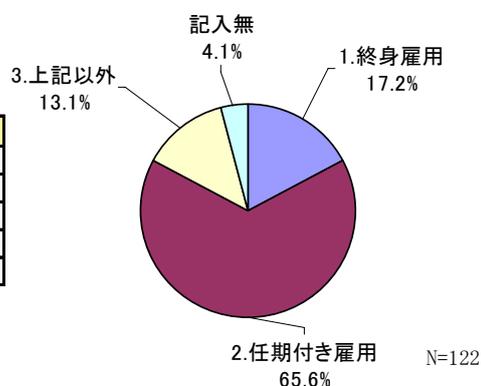


N=122

(2) 雇用形態

① 中国人研究者の回答のみ集計

雇用形態	有効回答数(人)	%
1. 終身雇用	21	17.2
2. 任期付き雇用	80	65.6
3. 上記以外	16	13.1
記入無	5	4.1
合計	122	100.0



b. 性別、年齢

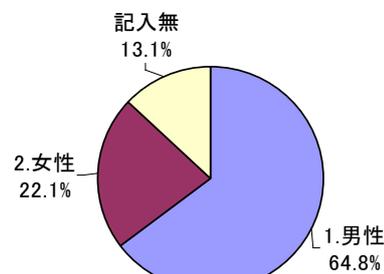
設問：あなたの「性別」「年齢」について、概要する項目をチェックして下さい。

- (1) 性別 1. 男性 2. 女性
- (2) 年齢 1. 19歳以下 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳
5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上

(1) 性別

① 中国人研究者の回答のみ集計

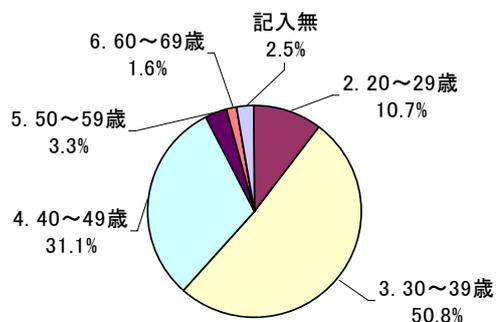
性別	有効回答数(人)	%
1. 男性	79	64.8
2. 女性	27	22.1
記入無	16	13.1
合計	122	100.0



(2) 年齢

① 中国人研究者の回答のみ集計

年齢	有効回答数(人)	%
1. 19歳以下	0	0.0
2. 20～29歳	13	10.7
3. 30～39歳	62	50.8
4. 40～49歳	38	31.1
5. 50～59歳	4	3.3
6. 60～69歳	2	1.6
7. 70歳以上	0	0.0
記入無	3	2.5
合計	122	100.0



2. 日本での研究活動を選択した理由

「日本での研究活動を選択した理由」について、「中国人科学技術人材のみ」の回答に見られる特徴を分析すると、以下のような結果が得られる。

(1) 第一志望国

「海外での研究活動を考える際の第一志望国はどこであったか」という質問については、日本が第一志望国との回答が 59 人 (48.4%)、日本は第一志望国ではなかったとの回答が 58 人 (47.5%) となり、ほぼ同レベルの値を示した。

(2) 日本を選択した理由

「研究活動の場として日本を選択した理由」については、複数選択方式の回答結果から、以下の項目を理由とする回答者が全体の 30% を超えることが分かった。

すなわち、最も回答が多かった理由は「研究施設や研究設備が充実しているため；51 人 (41.8%)」、次いで「対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高いため；49 人 (40.2%)」、「自国での指導教官や上司から推薦されたため；46 人 (37.7%)」、「文化的に親しみがもてるため；45 人 (36.9%)」、「地理的に近く、行き来しやすいため；37 人 (30.3%)」の順番となった。

「日本での研究活動を選択した理由」に関する回答結果の詳細を、以下にまとめて示した。

設問：海外での研究活動を考える際に、「日本」は、あなたの第一志望国でしたか。

1. はい

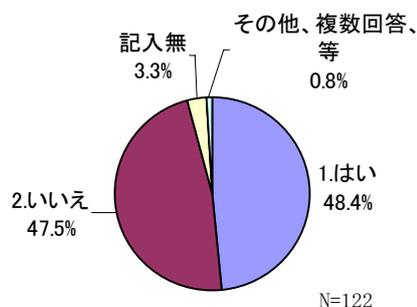
2. いいえ → 第一志望はどこの国あるいは地域でしたか。

(記入：)

(1) 第一志望国

① 中国人研究者の回答のみ集計

第1志望国	有効回答数(人)	%
1.はい	59	48.4
2.いいえ	58	47.5
記入無	4	3.3
その他、複数回答、等	1	0.8
合計	122	100.0



設問：なぜ日本での研究活動を選択しましたか。その理由を以下の項目から選択して下さい。（該当する項目を全てチェック）

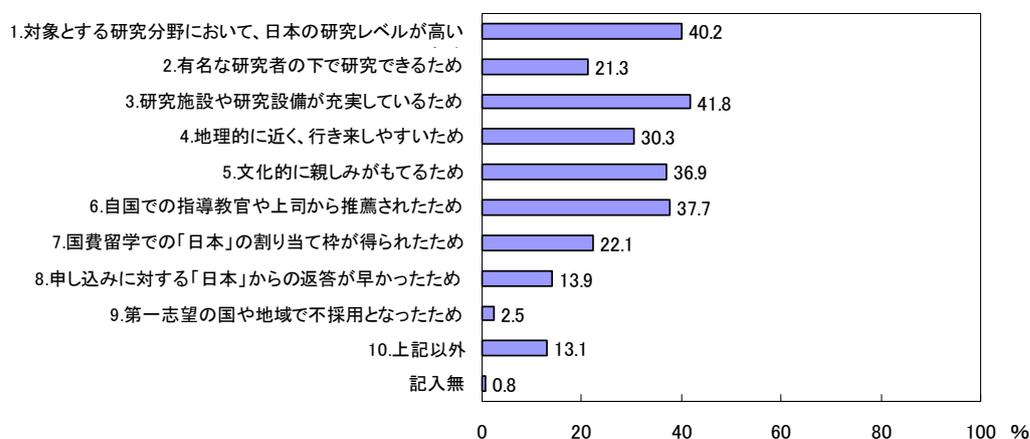
- 1. 対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高いため
- 2. 有名な研究者の下で研究できるため
- 3. 研究施設や研究設備が充実しているため
- 4. 地理的に近く、行き来しやすいため
- 5. 文化的に親しみがもてるため
- 6. 自国での指導教官や上司から推薦されたため
- 7. 国費留学での「日本」の割り当て枠が得られたため
- 8. 申し込みに対する「日本」からの返答が早かったため
- 9. 第一志望の国や地域で不採用となったため
- 10. 上記以外 記入：（記入： ）

(2) 日本を選択した理由

① 中国人研究者の回答のみ集計

日本での研究活動を選択した理由	有効回答数(人)	%
1.対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高いため	49	40.2
2.有名な研究者の下で研究できるため	26	21.3
3.研究施設や研究設備が充実しているため	51	41.8
4.地理的に近く、行き来しやすいため	37	30.3
5.文化的に親しみがもてるため	45	36.9
6.自国での指導教官や上司から推薦されたため	46	37.7
7.国費留学での「日本」の割り当て枠が得られたため	27	22.1
8.申し込みに対する「日本」からの返答が早かったため	17	13.9
9.第一志望の国や地域で不採用となったため	3	2.5
10.上記以外	16	13.1
記入無	1	0.8

N=122



N=122

3. 研究活動の契機となった制度や枠組み

前項の「日本での研究活動を選択した理由」に引き続き、ここでは「日本での研究活動の契機となった制度や枠組み」について、複数選択方式による回答結果を分析した。前項と同様に、中国語調査票の単純集計結果を用い「中国人科学技術人材のみ」による回答の特徴を分析すると、最も多い回答は「日本機関からの研究ポスト等の提供：61人(50.0%)」となり、「私費留学(来日前には日本での奨学金を取得せず)：21人(17.2%)」「国費留学：21人(17.2%)」がこれに続いた。なお、中国人科学技術人材の場合、ポストドクターとしての研究ポスト提供がかなり多くなっていると考えられる(注：前述の「所属機関における役職、雇用形態」に対する回答を見ると、全体の43.4%がポストドクターとなっている)ので、上記に加え、この点について考慮することも分析のポイントとなる。

「研究活動の契機となった制度や枠組み」に関する回答結果の詳細を、以下にまとめて示した。

設問：日本での研究活動を始めたのは、どのような制度や枠組みによるものですか。(該当する項目を全てチェック)

1. 政府間交流プロジェクト

可能であれば、プロジェクト名をご記入ください。()

2. 国費留学

3. 私費留学(来日前に日本での奨学金を取得)

4. 私費留学(来日前には日本での奨学金を取得せず)

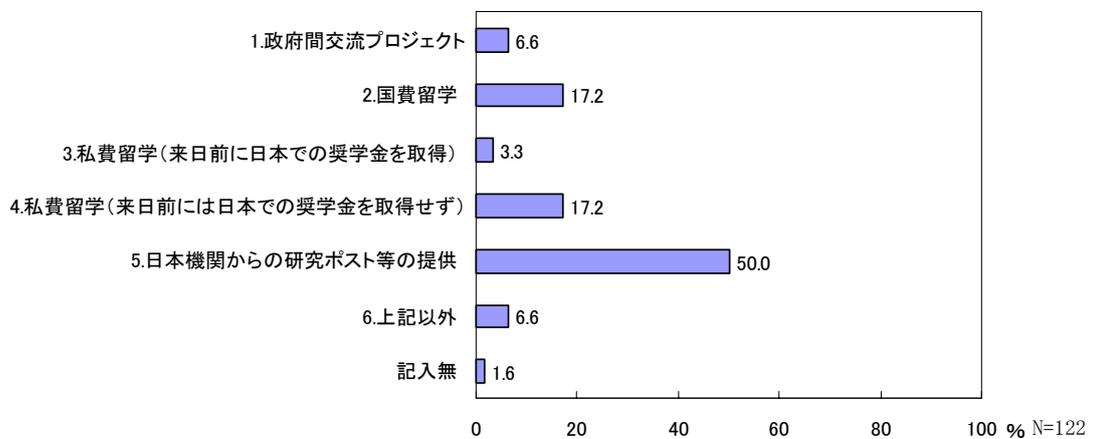
5. 日本機関からの研究ポスト等の提供

6. 上記以外 記入：()

① 中国人研究者の回答のみ集計

日本での研究活動の制度・枠組み	有効回答数(人)	%
1.政府間交流プロジェクト	8	6.6
2.国費留学	21	17.2
3.私費留学(来日前に日本での奨学金を取得)	4	3.3
4.私費留学(来日前には日本での奨学金を取得せず)	21	17.2
5.日本機関からの研究ポスト等の提供	61	50.0
6.上記以外	8	6.6
記入無	2	1.6

N=122



4. 研究活動について良いと感じられる点

本節では、来日してからの「日本での研究活動について良いと感じられる点」について、複数選択方式による回答結果を分析した。前項と同様に、中国語調査票の単純集計結果を用い「中国人科学技術人材のみ」による回答の特徴を分析したところ、以下の点を良いと感じている回答者が全体の40%を超えた。

すなわち、最も多い回答は「研究施設や研究設備が充実している；95人(77.9%)」となり、次いで「研究費が潤沢にあり、研究に専念できる；86人(70.5%)」「治安が良い；83人(68.0%)」「最新の研究情報が得られること；57人(46.7%)」「研究レベルが高い；50人(41.0%)」の順番となった。

「日本での研究活動について良いと感じられる点」に関する回答結果の詳細を、次頁以降にまとめて示した。

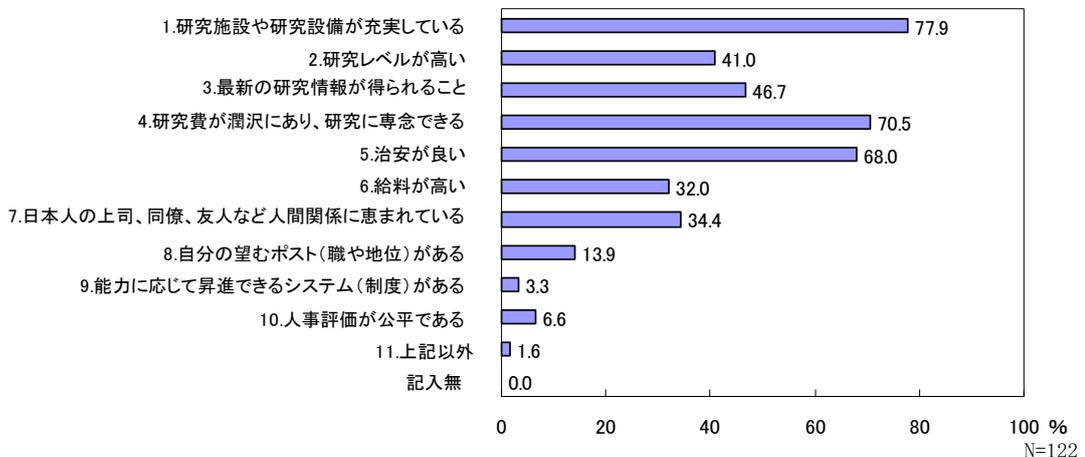
設問：実際に日本での研究活動を行ってみて、良いと感じられる点は何ですか。以下の項目から選択してください。（該当する項目を全てチェック）

- 1. 研究施設や研究設備が充実している
- 2. 研究レベルが高い
- 3. 最新の研究情報が得られること
- 4. 研究費が潤沢にあり、研究に専念できる
- 5. 治安が良い
- 6. 給料が高い
- 7. 日本人の上司、同僚、友人など人間関係に恵まれている
- 8. 自分の望むポスト（職や地位）がある
- 9. 能力に応じて昇進できるシステム（制度）がある
- 10. 人事評価が公平である
- 11. 上記以外 記入：（ ）

①中国人研究者の回答のみ集計

良いと感じられる点	有効回答数(人)	%
1.研究施設や研究設備が充実している	95	77.9
2.研究レベルが高い	50	41.0
3.最新の研究情報が得られること	57	46.7
4.研究費が潤沢にあり、研究に専念できる	86	70.5
5.治安が良い	83	68.0
6.給料が高い	39	32.0
7.日本人の上司、同僚、友人など人間関係に恵まれている	42	34.4
8.自分の望むポスト(職や地位)がある	17	13.9
9.能力に応じて昇進できるシステム(制度)がある	4	3.3
10.人事評価が公平である	8	6.6
11.上記以外	2	1.6
記入無	0	0.0

N=122



5. 来日後の日本に対する認識の変化

前項の「研究活動について良いと感じられる点」に引き続き、本節では「来日前と比較した場合の日本に対する評価の変化」に関する回答結果を分析した。

5. 1 研究環境

「研究環境」について、「研究施設や研究設備の充実度」「研究レベルの高さ」「最新研究情報の取得」「研究費が潤沢にあり、研究に専念できる環境」に関する評価の変化を質問したところ、次のような回答が得られた。

(1) 研究施設や研究設備の充実度

最も多い回答が「期待通り；83人（68.0%）」、次に多い回答が「期待以上；33人（27.0%）」となった。

(2) 研究レベルの高さ

最も多い回答が「期待通り；100人（82.0%）」、次に多い回答が「期待以上；12人（9.8%）」となった。

(3) 最新研究情報の取得

最も多い回答が「期待通り；80人（65.6%）」、次に多い回答が「期待以上；28人（23.0%）」となった。

(4) 研究費が潤沢にあり、研究に専念できる環境

最も多い回答が「期待通り；70人（57.4%）」、次に多い回答が「期待以上；39人（32.0%）」となった。

5. 2 生活環境

「生活環境」について、「治安の良さ」「給料の高さ」「日本人の知人、友人等人間関係」に関する評価の変化を質問したところ、次のような回答が得られた。

(1) 治安の良さ

最も多い回答が「期待以上；70人（57.4%）」、次に多い回答が「期待通り；52人（42.6%）」となった。

(2) 給料の高さ

最も多い回答が「期待通り；99人（81.1%）」、次に多い回答が「期待以下；14人（11.5%）」となった。

(3) 日本人の知人、友人等人間関係

最も多い回答が「期待通り ; 83 人 (68.0%)」、次に多い回答が「期待以上 ; 20 人 (16.4%)」となった。

5. 3 活躍の場

「活躍の場」について、「自分の望むポスト（職や地位）」「能力に応じて昇進できるシステム（制度）」「公平な人事評価」に関する評価の変化を質問したところ、次のような回答が得られた。

(1) 自分の望むポスト（職や地位）

最も多い回答が「期待通り ; 78 人 (63.9%)」、次に多い回答が「期待以下 ; 35 人 (28.7%)」となった。

(2) 能力に応じて昇進できるシステム（制度）

最も多い回答が「期待通り ; 58 人 (47.5%)」、次に多い回答が「期待以下 ; 54 人 (44.3%)」となった。

(3) 公平な人事評価

最も多い回答が「期待通り ; 74 人 (60.7%)」、次に多い回答が「期待以下 ; 37 人 (30.3%)」となった。

分析の基盤として用いた「来日前と比較した場合の日本に対する評価の変化」に関する回答結果の詳細を、次頁以降にまとめて示した。

設問：来日前と比較して、あなたの日本に対する評価はどのように変化しましたか。項目毎に最も適当な選択肢を1つだけチェックしてください。

項目		1.期待以上	2.期待通り	3.期待以下
研究環境	・研究施設や研究設備の充実度	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	・研究レベルの高さ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	・最新研究情報の取得	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	・研究費が潤沢にあり、研究に専念できる環境	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
生活環境	・治安の良さ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	・給料のよさ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	・日本人の知人、友人等人間関係	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
活躍の場	・自分の望むポスト(職や地位)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	・能力に応じての昇進できるシステム(制度)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	・公平な人事評価	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

①中国人研究者の回答のみ集計

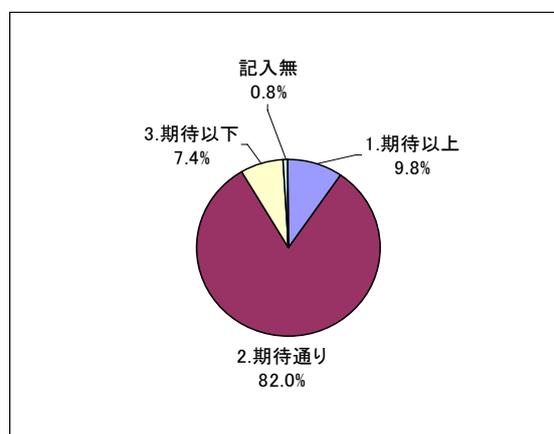
日本に対する評価		有効回答数(人)										合計		%	
		1.期待以上	%	2.期待通り	%	3.期待以下	%	記入無	%	その他、複数回答、等	%				
研究環境	研究施設や研究設備の充実度	33	27.0	83	68.0	6	4.9	0	0.0	0	0.0	122	100.0		
	研究レベルの高さ	12	9.8	100	82.0	9	7.4	1	0.8	0	0.0	122	100.0		
	最新研究情報の取得	28	23.0	80	65.6	12	9.8	2	1.6	0	0.0	122	100.0		
	研究費が潤沢にあり、研究に専念できる環境	39	32.0	70	57.4	12	9.8	1	0.8	0	0.0	122	100.0		
生活環境	治安の良さ	70	57.4	52	42.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	122	100.0		
	給料の良さ	8	6.6	99	81.1	14	11.5	1	0.8	0	0.0	122	100.0		
	日本人の知人、友人等人間関係	20	16.4	83	68.0	18	14.8	0	0.0	1	0.8	122	100.0		
活躍の場	自分の望むポスト(職や地位)	4	3.3	78	63.9	35	28.7	4	3.3	1	0.8	122	100.0		
	能力に応じての昇進できるシステム(制度)	2	1.6	58	47.5	54	44.3	8	6.6	0	0.0	122	100.0		
	公平な人事評価	5	4.1	74	60.7	37	30.3	5	4.1	1	0.8	122	100.0		

◆研究環境

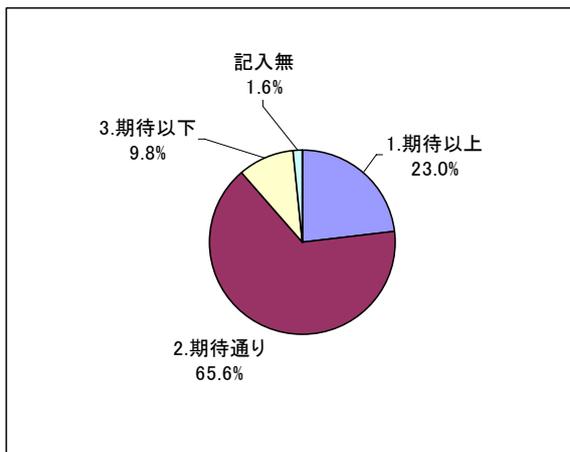
研究施設や研究設備の充実度



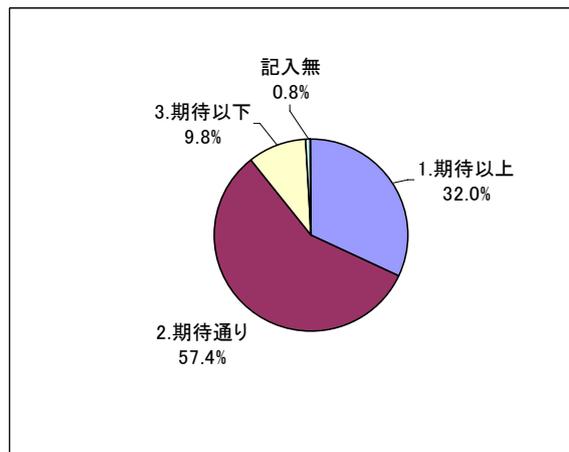
研究レベルの高さ



研究費が潤沢にあり、研究に専念できる環境

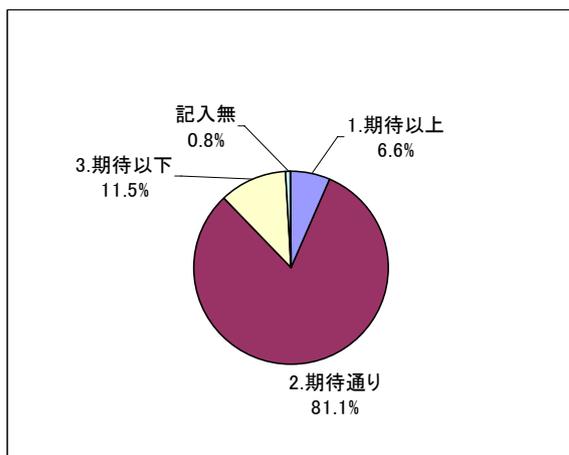
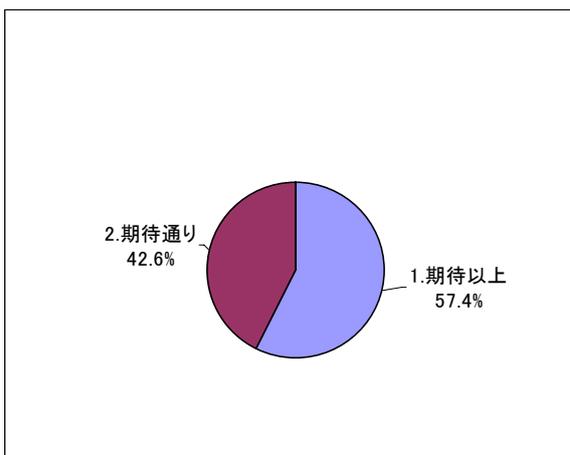


最新研究情報の取得

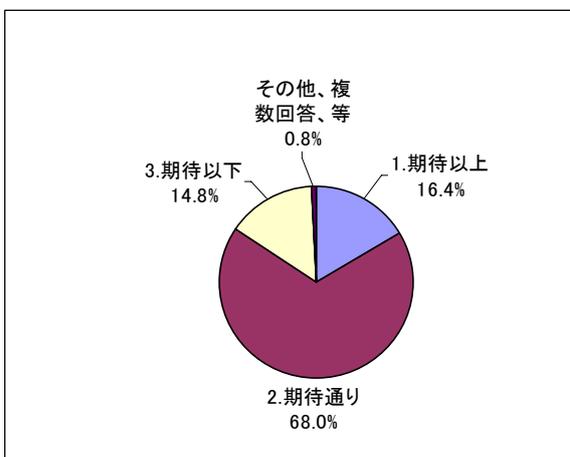


N=122

◆生活環境

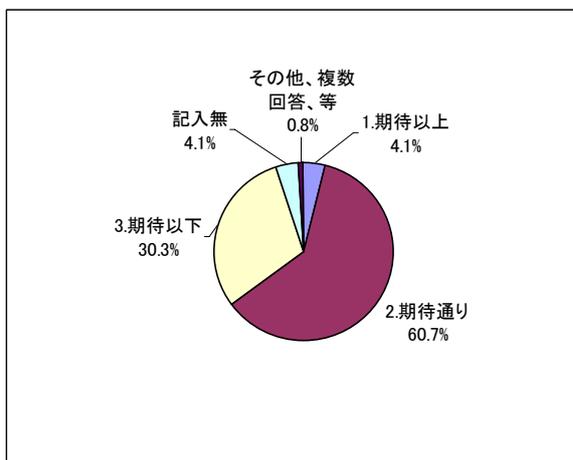
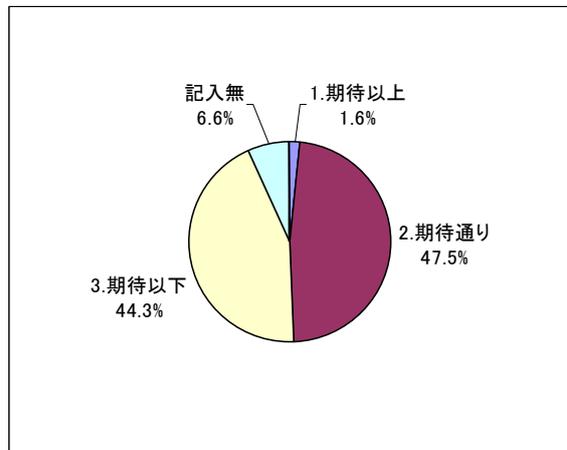
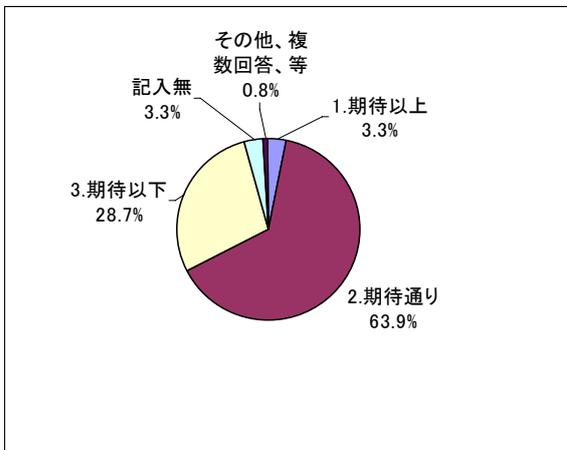


N=122



N=122

◆活躍の場



N=122

6. 研究活動について負担に感じられる点

本節では、「日本での研究活動について負担に感じられる点」について、複数選択方式による回答結果を分析したところ、以下の点を負担に感じている回答者が全体の30%を超えた。

すなわち、最も多い回答は「日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる；60人(49.2%)」と「雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がある；60人(49.2%)」になり、次いで「日本での生活は、子供の教育面で不安がある；49人(40.2%)」「活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い；46人(37.7%)」「自分の希望するポストに、なかなか就くことができない；45人(36.9%)」「配偶者の就業場所が、なかなか見つからない；41人(33.6%)」の順番となった。

「日本での研究活動について負担に感じられる点」に関する回答結果の詳細を、以下にまとめて示した。

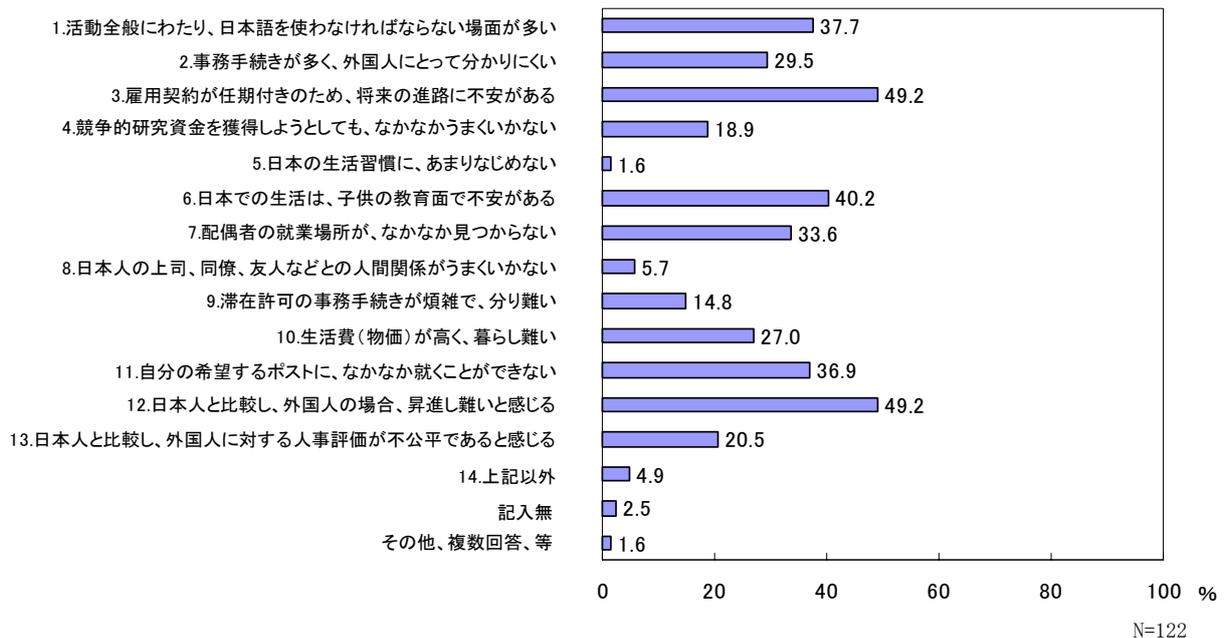
設問：実際に日本での研究活動を行ってみて、負担に感じられる点は何ですか。以下の項目から選択してください。(該当する項目を全てチェック)

- 1. 活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い
- 2. 事務手続きが多く、外国人にとって分かりにくい
- 3. 雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がある
- 4. 競争的研究資金を獲得しようとしても、なかなかうまくいかない
- 5. 日本の生活習慣に、あまりなじめない
- 6. 日本での生活は、子供の教育面で不安がある
- 7. 配偶者の就業場所が、なかなか見つからない
- 8. 日本人の上司、同僚、友人などとの人間関係がうまくいかない
- 9. 滞在許可の事務手続きが煩雑で、分り難い
- 10. 生活費（物価）が高く、暮らし難い
- 11. 自分の希望するポストに、なかなか就くことができない
- 12. 日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる
- 13. 日本人と比較し、外国人に対する人事評価が不公平であると感じる
- 14. 上記以外 記入：()

① 中国人研究者の回答のみ集計

負担に感じられる点	有効回答数(人)	%
1.活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い	46	37.7
2.事務手続きが多く、外国人にとって分かりにくい	36	29.5
3.雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がある	60	49.2
4.競争的研究資金を獲得しようとしても、なかなかうまくいかない	23	18.9
5.日本の生活習慣に、あまりなじめない	2	1.6
6.日本での生活は、子供の教育面で不安がある	49	40.2
7.配偶者の就業場所が、なかなか見つからない	41	33.6
8.日本人の上司、同僚、友人などとの人間関係がうまくいかない	7	5.7
9.滞在許可の事務手続きが煩雑で、分り難い	18	14.8
10.生活費(物価)が高く、暮らし難い	33	27.0
11.自分の希望するポストに、なかなか就くことができない	45	36.9
12.日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる	60	49.2
13.日本人と比較し、外国人に対する人事評価が不公平であると感じる	25	20.5
14.上記以外	6	4.9
記入無	3	2.5
その他、複数回答、等	2	1.6

N=122



7. 日本での研究活動を継続する可能性

本節では、「日本での研究活動を継続する可能性」について、複数選択方式による回答結果を分析したところ、以下の回答が得られた。

(1) 研究活動の場

「3年～5年後を想定した場合、自分自身の研究活動の場をどこに確保したいか」という質問については、「日本で引き続き活動したい」という回答が51人(41.8%)、「帰国したい」という回答が48人(39.3%)と同レベルの値となった。「欧米(自国を除く)に移動したい」という回答も20人(16.4%)見られた。

(2) 日本での活動を継続したい理由

「日本で引き続き活動したい」と回答した外国人科学技術人材を対象に、日本での活動を継続したい理由を調べると(複数選択方式による回答結果)、「日本において満足できる研究ポストが獲得できた(あるいは、獲得する見込みがある)ため」が過半を占めていることが分かる。また「日本人や日本社会とのネットワークを生かしたい」「日本における上司や同僚から、日本での研究活動継続を強く望まれているため」を理由として挙げるケースもかなり多い。

(3) 帰国したい理由

「帰国したい」と回答した外国人科学技術人材を対象とした場合、その理由として「子供の教育や家族の問題などの個人的事情を考慮すると、自国での研究活動が最も適切であると判断されるため」が過半を占めていることが分かった。

このほかに、「自国において満足できる研究ポストが獲得できた(あるいは、獲得する見込みがある)ため」「帰国することが来日前の前提条件であったため」を理由として挙げるケースもかなり多くなっている。

「日本での研究活動を継続する可能性」に関する回答結果の詳細を、次頁以降にまとめて示した。

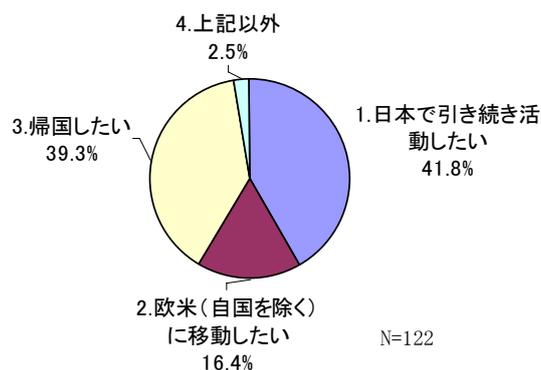
設問：3年～5年後を想定した場合、あなたは「自分自身の研究活動の場」をどこに確保したいと考えていますか。以下の項目から1つだけ選択してください。

- 1. 日本で引き続き活動したい。 ⇒ (1) へお進みください
- 2. 欧米（自国を除く）に移動したい。 ⇒ (2) へお進みください
- 3. 帰国したい。 ⇒ (3) へお進みください
- 4. 上記以外

①中国人研究者の回答のみ集計

研究活動の場	有効回答数(人)	%
1.日本で引き続き活動したい	51	41.8
2.欧米(自国を除く)に移動したい	20	16.4
3.帰国したい	48	39.3
4.上記以外	3	2.5
合計	122	100.0

N=122



N=122

設問：上記を選択した理由は何ですか。(1)～(3)のいずれかについて、ご回答下さい。(該当する項目を全てチェック)

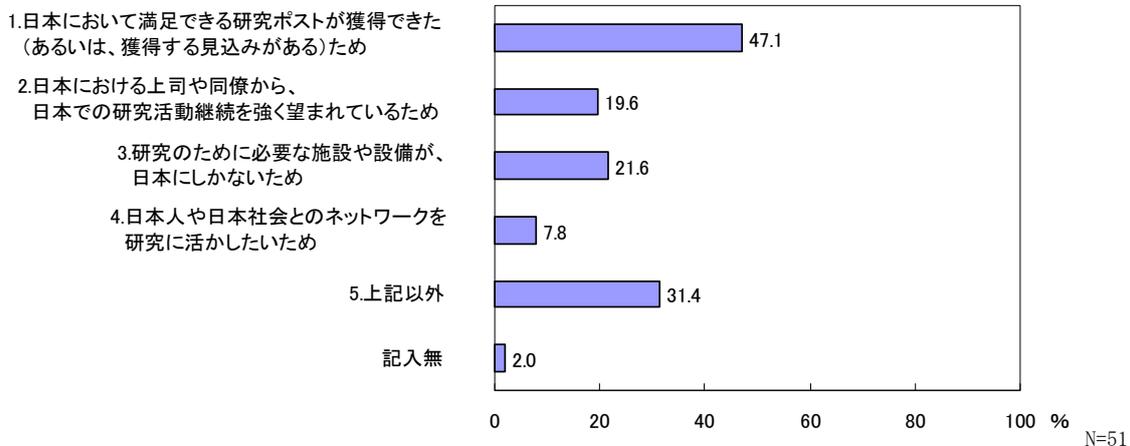
(1)「日本で引き続き活動したい」を選択された方；

- 1. 日本において満足できる研究ポストが獲得できた(あるいは、獲得する見込みがある)ため
- 2. 日本における上司や同僚から、日本での研究活動継続を強く望まれているため
- 3. 研究のために必要な施設や設備が、日本にしかないため
- 4. 日本人や日本社会とのネットワークを研究に活かしたいため
- 5. 上記以外 記入：()

①中国人研究者の回答のみ集計

1.を選択した理由	有効回答数(人)	%
1.日本において満足できる研究ポストが獲得できた(あるいは、獲得する見込みがある)ため	24	47.1
2.日本における上司や同僚から、日本での研究活動継続を強く望まれているため	10	19.6
3.研究のために必要な施設や設備が、日本にしかないため	11	21.6
4.日本人や日本社会とのネットワークを研究に活かしたいため	4	7.8
5.上記以外	16	31.4
記入無	1	2.0

N=51



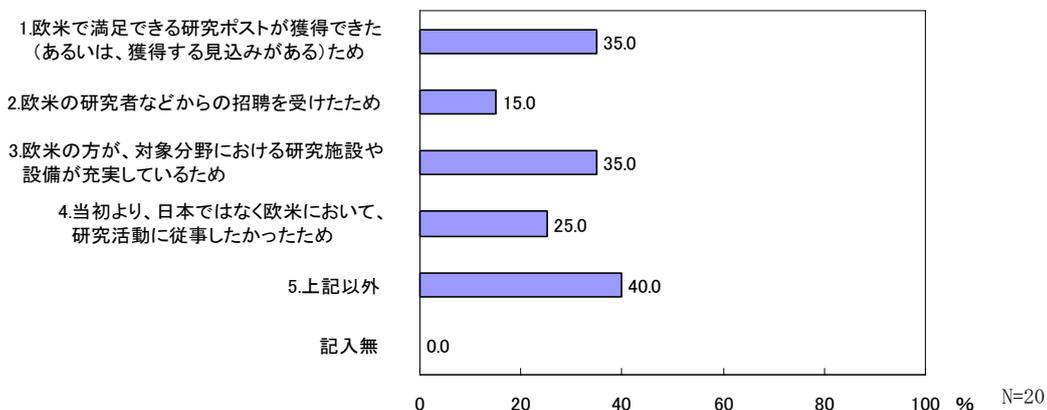
(2) 「欧米（自国を除く）に移動したい」を選択された方；

- 1. 欧米で満足できる研究ポストが獲得できた（あるいは、獲得する見込みがある）ため
- 2. 欧米の研究者などからの招聘を受けたため
- 3. 欧米の方が、対象分野における研究施設や設備が充実しているため
- 4. 当初より、日本ではなく欧米において、研究活動に従事したかったため
- 5. 上記以外 記入：()

① 中国人研究者の回答のみ集計

2.を選択した理由	有効回答数(人)	%
1.欧米で満足できる研究ポストが獲得できた(あるいは、獲得する見込みがある)ため	7	35.0
2.欧米の研究者などからの招聘を受けたため	3	15.0
3.欧米の方が、対象分野における研究施設や設備が充実しているため	7	35.0
4.当初より、日本ではなく欧米において、研究活動に従事したかったため	5	25.0
5.上記以外	8	40.0
記入無	0	0.0

N=20



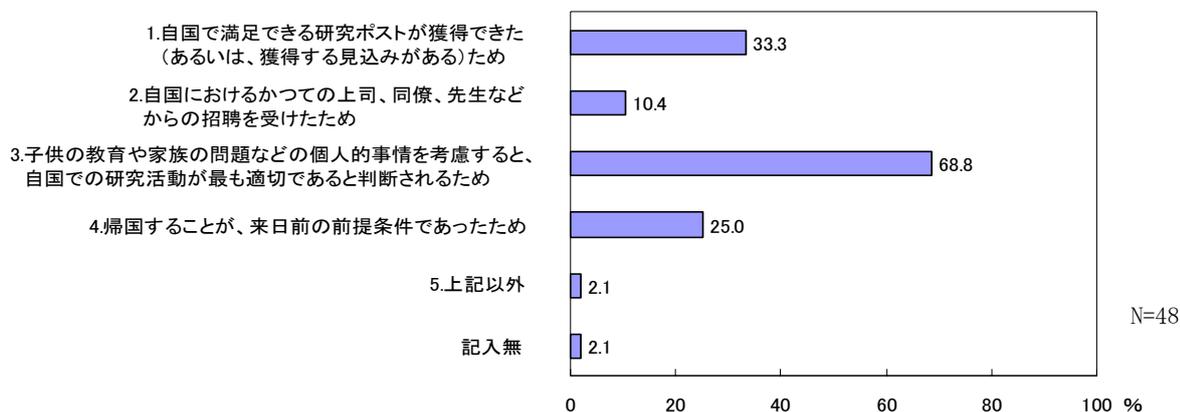
(3) 「帰国したい」を選択された方;

- 1. 自国で満足できるポストが獲得できた（あるいは、獲得する見込みがある）ため
- 2. 自国におけるかつての上司、同僚、先生などからの招聘を受けたため
- 3. 子供の教育や家族の問題などの個人的事情を考慮すると、自国での研究活動が最も適切であると判断されるため
- 4. 帰国することが、来日前の前提条件であったため
- 5. 上記以外 記入：（ ）

① 中国人研究者の回答のみ集計

3.を選択した理由	有効回答数(人)	%
1.自国で満足できるポストが獲得できた(あるいは、獲得する見込みがある)ため	16	33.3
2.自国におけるかつての上司、同僚、先生などからの招聘を受けたため	5	10.4
3.子供の教育や家族の問題などの個人的事情を考慮すると、自国での研究活動が最も適切であると判断されるため	33	68.8
4.帰国することが、来日前の前提条件であったため	12	25.0
5.上記以外	1	2.1
記入無	1	2.1

N=48



設問：研究者として最終的に活動する場として、「自国」での活躍を望まれていますか。（該当する項目を1つだけチェックして下さい）

1. 望んでいる

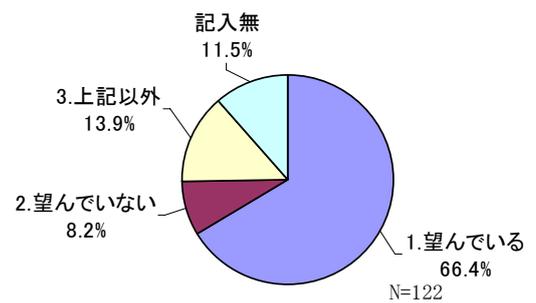
2. 望んでいない

3. 上記以外 記入：（ ）

①中国人研究者の回答のみ集計

「自国」での活躍	有効回答数(人)	%
1.望んでいる	81	66.4
2.望んでいない	10	8.2
3.上記以外	17	13.9
記入無	14	11.5
合計	122	100.0

N=122



8. 外国人の活躍を促進するための方策

「外国人研究者が活躍しやすい環境づくりのための方策」に関する回答結果を分析したところ、次のような結果が得られた。

8. 1 出入国管理制度

「出入国管理制度」に関わる方策として、「出入国ビザの手続きの簡素化」「外国人の日本の資格免許の取得条件の緩和（海外の資格の有無による条件緩和）」を実現した場合の有効性について5段階評価（「非常に有効」「ある程度有効」「どちらとも言えない」「あまり有効」でない」「全く有効でない」の中から一つを選択）で質問したところ、以下の回答が得られた。

(1) 出入国ビザの手続きの簡素化

最も多い回答が「ある程度有効；47人（38.5%）」、次に多い回答が「どちらとも言えない；29人（23.8%）」となった。

(2) 外国人の日本の資格免許の取得条件の緩和

最も多い回答が「ある程度有効；45人（36.9%）」、次に多い回答が「どちらとも言えない；33人（27.0%）」となった。

8. 2 就職環境

「就職環境」に関わる方策として、「外国人雇用取り組み促進策の充実」「長期間の雇用保障制度の導入」を実現した場合の有効性について、同様に5段階評価で質問したところ、以下の回答が得られた。

(1) 外国人雇用取り組み促進策の充実

最も多い回答が「ある程度有効；51人(41.8%)」、次に多い回答が「非常に有効；45人(36.9%)」となった。

(2) 長期間の雇用保障制度の導入

最も多い回答が「非常に有効；66人(54.1%)」、次に多い回答が「ある程度有効；33人(27.0%)」となった。

8. 3 外国人に不利にならない評価環境の整備

「外国人に不利にならない評価環境の整備」に関わる方策として、「競争的研究資金の申請において英語による申請の機会の拡大」「人事評価の透明化」を実現した場合の有効性について、同様に5段階評価で質問したところ、以下の回答が得られた。

(1) 競争的研究資金の申請において英語による申請の機会の拡大

最も多い回答が「ある程度有効；45人(36.9%)」、次に多い回答が「非常に有効；32人(26.2%)」となった。

(2) 人事評価の透明化

最も多い回答が「ある程度有効；48人(39.3%)」、次に多い回答が「どちらとも言えない；34人(27.9%)」となった。

8. 4 家族支援

「家族支援」に関わる方策として、「配偶者の就労資格付与条件の緩和」「子弟教育の支援施策」を実現した場合の有効性について、同様に5段階評価で質問したところ、以下の回答が得られた。

(1) 配偶者の就労資格付与条件の緩和

最も多い回答が「ある程度有効；50人(41.0%)」、次に多い回答が「非常に有効；27人(22.1%)」となった。

(2) 子弟教育の支援施策

最も多い回答が「ある程度有効；45人(36.9%)」、次に多い回答が「非常に有効；

39人(32.0%)」となった。

8. 5 その他

上記以外の方策として、「留学生受入れの支援策の充実(奨学金など)」「多様な人材の受け入れに対する日本人の意識の醸成」を実現した場合の有効性について、同様に5段階評価で質問したところ、以下の回答が得られた。

(1) 留学生受入れの支援策の充実(奨学金など)

最も多い回答が「非常に有効; 40人(32.8%)」、次に多い回答が「ある程度有効; 35人(28.7%)」となった。

(2) 多様な人材の受け入れに対する日本人の意識の醸成

最も多い回答が「非常に有効; 46人(37.7%)」、次に多い回答が「ある程度有効; 36人(29.5%)」となった。

全体的には、今回のアンケートで提示した「外国人研究者が活躍しやすい環境づくりのための方策」について肯定的な回答が多く寄せられた。「非常に有効」と「ある程度有効」という二つの回答を合わせると、各項目に対する肯定的回答の割合は、次のようになる。

a. 出入国管理制度

- ・ 出入国ビザの手続きの簡素化; 59.8%
- ・ 外国人の日本の資格免許の取得条件の緩和; 54.9%

b. 就職環境

- ・ 外国人雇用取り組み促進策の充実; 78.7%
- ・ 長期間の雇用保障制度の導入; 81.1%

c. 外国人に不利にならない評価環境の整備

- ・ 競争的研究資金の申請において英語による申請の機会の拡大; 63.1%
- ・ 人事評価の透明化; 58.2%

d. 家族支援

- ・ 配偶者の就労資格付与条件の緩和; 63.1%
- ・ 子弟教育の支援施策; 68.9%

e. その他

- ・ 留学生受入れの支援策の充実(奨学金など); 61.5%
- ・ 多様な人材の受け入れに対する日本人の意識の醸成; 67.2%

これらの結果から、長期間の雇用保障制度の導入など、就職環境に対する要望が特に高いことが分かる。外国人科学技術人材を引き付けるためには、人材流動性を高める方策に加え、「一定期間の活動を経て優れた業績を上げた外国人科学技術人材には、長期の雇用を保証し報いる」ことが重要となることが示唆される。

「外国人の活躍を促進するための方策」に関する回答結果の詳細を、以下にまとめて示した。

設問：外国人研究者が日本において「より活躍しやすい環境」を作っていくために、以下の各方策について、最も適切だと思われる選択肢を1つだけチェックしてください。

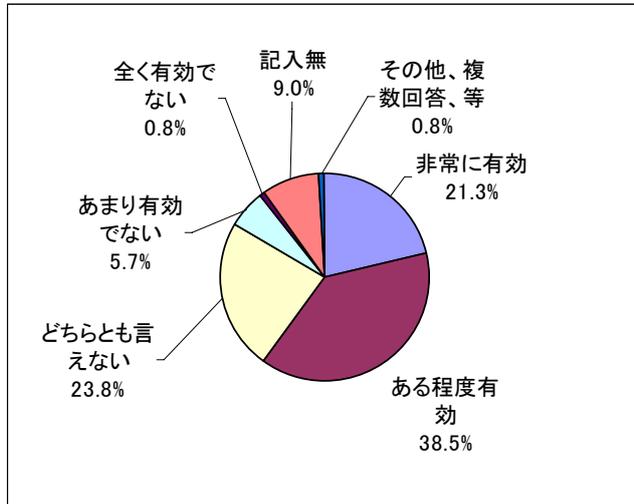
対象項目	方 策	非常に有効	ある程度有効	どちらとも言えない	あまり有効でない	全く有効でない
出入国管理制度	・ 出入国ビザの手続きの簡素化	<input type="checkbox"/>				
	・ 外国人の日本の資格免許の取得条件の緩和 (海外の資格の有無による条件緩和)	<input type="checkbox"/>				
就職環境	・ 外国人雇用取り組み促進策の充実	<input type="checkbox"/>				
	・ 長期間の雇用保証制度の導入	<input type="checkbox"/>				
外国人に不利にならない評価環境の整備	・ 競争的研究資金の申請において、英語による申請の機会の増大	<input type="checkbox"/>				
	・ 人事評価の透明化	<input type="checkbox"/>				
家族支援	・ 配偶者の就労資格付与条件の緩和	<input type="checkbox"/>				
	・ 子弟教育の支援施策	<input type="checkbox"/>				
その他	・ 留学生受入れの支援策の充実(奨学金など)	<input type="checkbox"/>				
	・ 多様な人材の受け入れに対する日本人の意識の醸成	<input type="checkbox"/>				

①中国人研究者の回答のみ集計

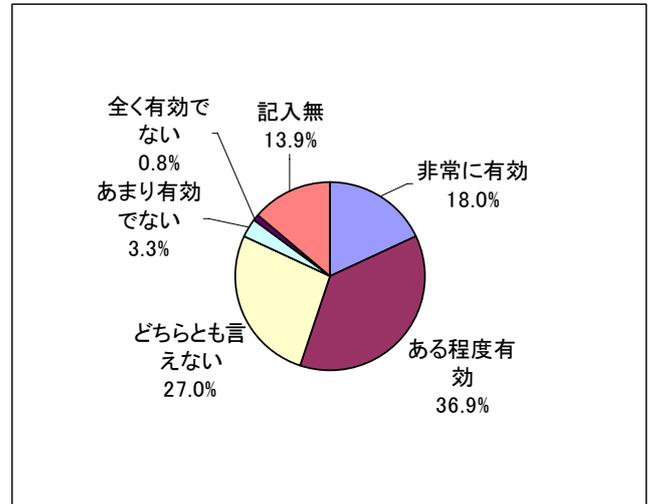
最も適切だと思われる選択肢	有効回答数(人)										合計	%					
	非常に有効	%	ある程度有効	%	どちらとも言えない	%	あまり有効でない	%	記入無	%							
出入国管理制度	出入国ビザの手続きの簡素化	26	21.3	47	38.5	29	23.8	7	5.7	1	0.8	11	9.0	1	0.8	122	100.0
	外国人の日本の資格免許の取得条件の緩和	22	18.0	45	36.9	33	27.0	4	3.3	1	0.8	17	13.9	0	0.0	122	100.0
就職環境	外国人雇用取り組み促進策の充実	45	36.9	51	41.8	12	9.8	2	1.6	0	0.0	12	9.8	0	0.0	122	100.0
	長期間の雇用保証制度の導入	66	54.1	33	27.0	7	5.7	3	2.5	1	0.8	12	9.8	0	0.0	122	100.0
外国人に不利にならない評価環境の整備	競争的研究資金の申請において、英語による申請の機会の増大	32	26.2	45	36.9	27	22.1	3	2.5	1	0.8	14	11.5	0	0.0	122	100.0
	人事評価の透明化	23	18.9	48	39.3	34	27.9	0	0.0	0	0.0	16	13.1	1	0.8	122	100.0
家族支援	配偶者の就労資格付与条件の緩和	27	22.1	50	41.0	24	19.7	3	2.5	1	0.8	17	13.9	0	0.0	122	100.0
	子弟教育の支援施策	39	32.0	45	36.9	21	17.2	2	1.6	0	0.0	15	12.3	0	0.0	122	100.0
その他	留学生受入れの支援策の充実(奨学金など)	40	32.8	35	28.7	27	22.1	3	2.5	0	0.0	17	13.9	0	0.0	122	100.0
	多様な人材の受け入れに対する日本人の意識の醸成	46	37.7	36	29.5	23	18.9	4	3.3	0	0.0	13	10.7	0	0.0	122	100.0

◆ 出入国管理制度

出入国ビザの手続きの簡素化



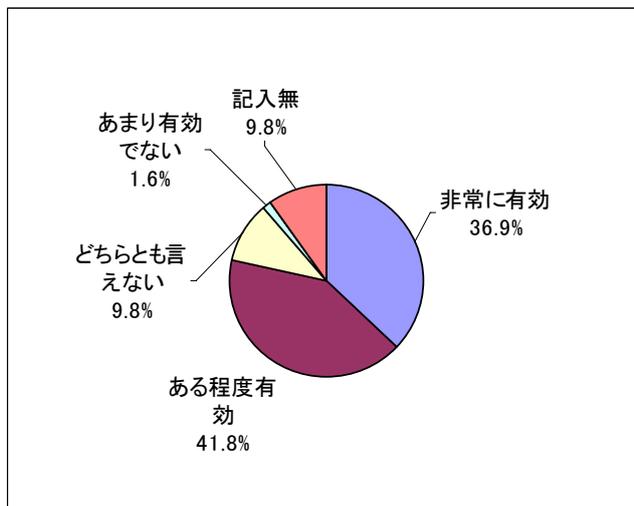
外国人の日本の資格免許の取得条件の緩和



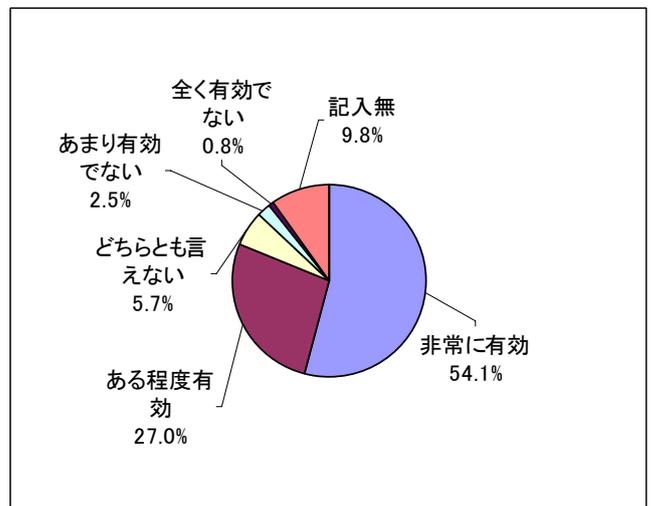
N=122

◆ 就職環境

外国人雇用取り組み促進策の充実



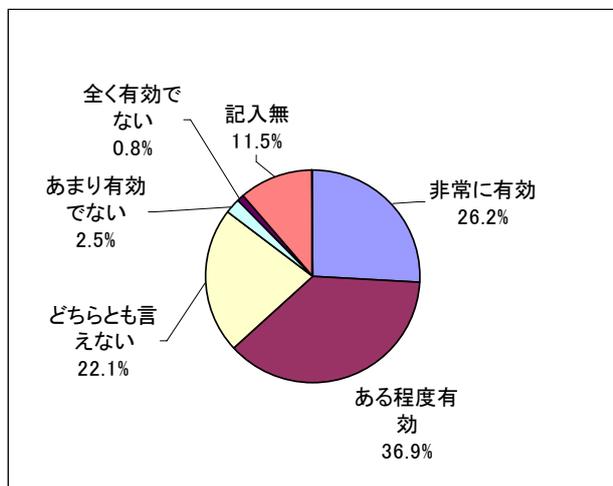
長期間の雇用保証制度の導入



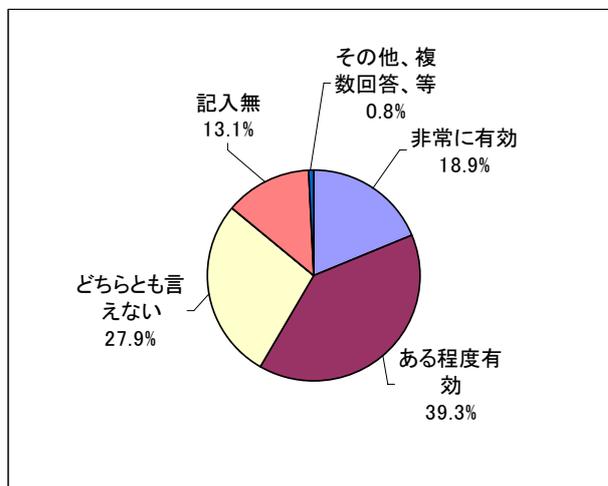
N=122

◆外国人に不利にならない評価環境の整備

競争的研究資金の申請において、
英語による申請の機会の増大



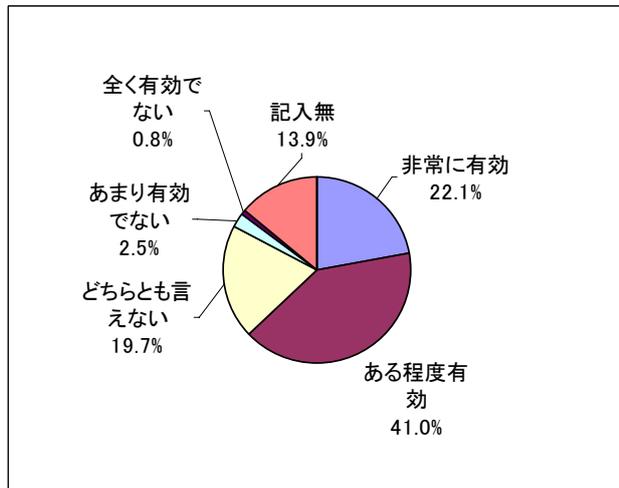
人事評価の透明化



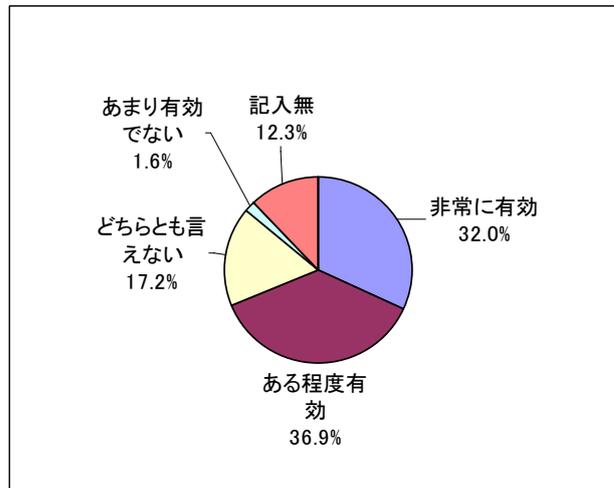
N=122

◆家族支援

配偶者の就労資格付与条件の緩和



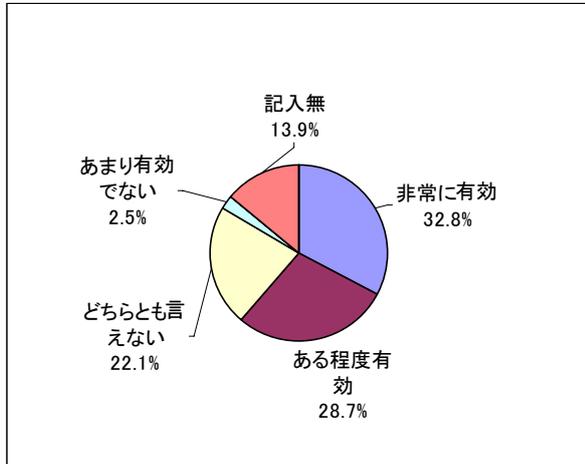
子弟教育の支援施策



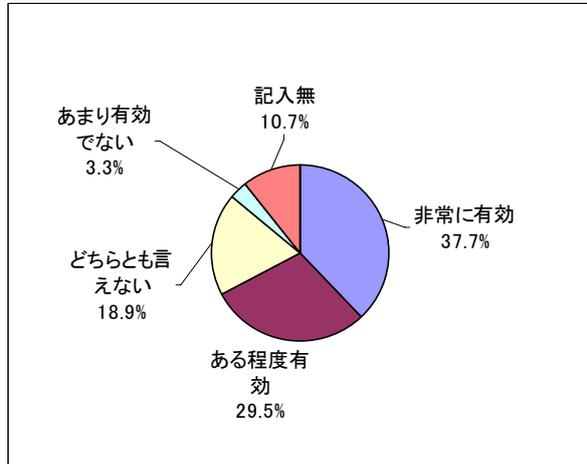
N=122

◆その他

留学生受入れの支援策の充実(奨学金など)



多様な人材の受け入れに対する日本人の意識の醸成



N=122

第4章 個人アンケートからの導出結果

前章で詳述した個人アンケートの分析結果から、日本で活動している中国人科学技術人材の活動実態として、以下の特徴が浮かび上がる。

第一に、「研究活動の場としての日本の現状」について、3つの特徴を指摘できる。

①日本での研究活動を選択した理由

- ・日本での研究活動を選択した中国人科学技術人材の過半は、海外での研究活動を行う場合の第一志望国が日本であったものと推定される。
- ・研究活動の場として日本を選択した理由としては、「対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高いため」「研究施設や研究設備が充実しているため」「文化的に親しみがもてるため」の3つが上位を占める。
- ・すなわち、日本を選択した中国人科学技術人材を対象とした場合、研究活動の場としての日本の評価は比較的高い。

②研究活動の契機となった制度や仕組み

- ・日本での研究活動の契機となった制度や仕組みとして、最も大きな役割を果たしているのが「日本機関からの研究ポスト等の提供」になる。

③日本での研究活動を継続する可能性

- ・全体として見た場合、「日本での活動を継続したい」と考えている中国人科学技術人材は過半を占める。
- ・日本での活動を継続したい理由として、「日本において満足できる研究ポストが獲得できた（あるいは、獲得する見込みがある）ため」を上げるケースが最も多い。
- ・これに対し、帰国したい理由としては、「子供の教育や家族の問題などの個人的事情を考慮すると、自国での研究活動が最も適切であると判断されるため」を上げるケースが最も多い。

第二に、「日本における研究活動のメリット、デメリット」について、2つの特徴を指摘できる。

①研究活動について良いと感じられる点

- ・全体として見た場合、「研究施設や研究設備が充実している」「研究費が潤沢にあり、研究に専念できる」点を良いと感じている外国人科学技術人材が多い。
- ・このほか、「最新の研究情報が得られること」「研究レベルが高い」「日本人の上司、同僚、友人など人間関係に恵まれている」「自分の望むポスト(職や地位)がある」点を良いと感じている外国人科学技術人材がかなり見られる。

②研究活動について負担に感じられる点

- ・ 全体として見た場合、「日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる」「雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がある」「事務手続きが多く、外国人にとって分かりにくい」点を負担に感じている外国人科学技術人材が多い。
- ・ このほか、「日本での生活は、子供の教育面で不安がある」「自分の希望するポストに、なかなか就くことができない」「活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い」「配偶者の就業場所が、なかなか見つからない」点を負担に感じている外国人科学技術人材がかなり見られる。

第三に、「来日後の日本に対する認識の変化」について、3つの特徴を指摘できる。

①研究環境としての認識の変化

- ・ 全体として見ると、日本の研究環境については、来日後も「期待通り」と評価する外国人科学技術人材が過半を占める。
- ・ 上記傾向は、「研究施設や研究設備の充実度」「研究レベルの高さ」「最新研究情報の取得」「研究費が潤沢にあり研究に専念できる環境」のいずれに対する評価においても共通している。

②生活環境としての認識の変化

- ・ 全体として見ると、日本の生活環境については、研究環境の場合と同様に、来日後も「期待通り」と評価する外国人科学技術人材が過半を占める。
- ・ 上記傾向は、「治安の良さ」「給料の高さ」「日本人の知人、友人等人間関係」のいずれに対する評価においても共通している。
- ・ 特に、「治安の良さ」については、「期待以上」という回答の割合がかなり高くなっている。

③就業環境としての認識の変化

- ・ 全体として見ると、日本での就業環境についても、研究環境や生活環境の場合と同様に、来日後も「期待通り」と評価する外国人科学技術人材が過半を占める。
- ・ ただし、研究環境や生活環境の場合とは異なり、「期待以下」という回答の割合もかなり高い。
- ・ 中でも、「能力に応じて昇進できるシステム」の評価において、「期待以下」という回答の割合が最も高くなっている。

上記に加え、第四に、「外国人の活躍を促進するための方策」について、以下の5つの検討課題を提示できる。

①出入国管理制度

- ・ 全体的には、「出入国管理制度」の面で外国人科学技術人材の活躍を促進する方策として、「出入国ビザの手続きの簡素化」や「外国人の日本の資格免許の取得条件の緩

和」は有効であるという回答がかなり見られる。

- ・ 2つの方策を比較した場合、傾向としては、「出入国ビザの手続きの簡素化」が有効であるという回答の方が多くなっている。

②就職環境

- ・ 全体的には、「就職環境」の面で外国人科学技術人材の活躍を促進する方策として、「外国人雇用取り組み促進策の充実」や「長期間の雇用保障制度の導入」は有効であるという回答が多い。
- ・ いずれの方策についても、「非常に有効」と「ある程度有効」という回答の合計が、全体の8割を占めている。

③外国人に不利にならない評価環境の整備

- ・ 全体的には、「外国人に不利にならない評価環境の整備」の面で外国人科学技術人材の活躍を促進する方策として、「競争的研究資金の申請において英語による申請の機会の拡大」「人事評価の透明化」は有効であるという回答がかなり見られる。
- ・ 2つの方策を比較した場合、傾向としては、「人事評価の透明化」が有効であるという回答の方が多くなっている。

④家族支援

- ・ 全体的には、「家族支援」の面で外国人科学技術人材の活躍を促進する方策として、「配偶者の就労資格付与条件の緩和」「子弟教育の支援施策」は有効であるという回答がかなり見られる。
- ・ 2つの施策を比較した場合、傾向としては、「子弟教育の支援施策」が有効であるという回答の方が多くなっている。

⑤その他

- ・ 全体的には、「その他」の面で外国人科学技術人材の活躍を促進する方策として、「留学生受入れの支援策の充実（奨学金など）」「多様な人材の受け入れに対する日本人の意識の醸成」は有効であるという回答が多い。
- ・ いずれの方策についても、「非常に有効」と「ある程度有効」という回答の合計が、全体の7割を超えている。

以上により、「中国人科学技術人材の活動実態に見られる特徴と課題」について全体像を把握した上で、「日本における中国科学技術人材の拡大」に向けた方策をより詳細に検討するため、次章以降のクロス分析を行った。結果の詳細を、以下にまとめて示した。

第5章 クロス分析に基づく詳細評価

前章にまとめた個人アンケートからの導出結果を踏まえ、「日本での中国科学技術人材の拡大」に関する方策検討の基本となる以下の4項目を取り上げ、個々の回答をもたらした背景や内容の妥当性について、多面的指標に基づく詳細評価を行った。

- ・ 日本での研究活動を選択した理由
- ・ 日本での研究活動の契機となった制度や枠組み
- ・ 日本での研究活動について良いと感じられる点
- ・ 日本での研究活動について負担に感じられる点

1. 役職を評価指標としたクロス分析

第一に、アンケートで得られた「中国人科学技術人材による回答」の特徴について、「役職」に基づく比較分析を行った。役職については、博士取得後の任期付きポストである「ポストドクター」に注目し、「教授、助教授、講師、助手」の回答と比較した場合の特徴を把握した。そのために、以下の3つの評価指標を用い、クロス分析を行った。

- ・ 評価指標①；中国人科学技術人材全体を対象とした場合
- ・ 評価指標②；中国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合
- ・ 評価指標③；中国人科学技術人材で、役職が「ポストドクター」に該当する人を対象とした場合

1. 1 日本での研究活動を選択した理由

「日本での研究活動を選択した理由」についてクロス分析を行うと、次のような結果となる。

(1) 第一志望国

「海外での研究活動を考える際の第一志望国はどこであったか」という質問については、評価指標毎に、以下のような回答分布が得られることが分かった。

a. 中国人科学技術人材全体を対象とした場合

中国人科学技術人材の回答者全体（122 人）を対象とした場合は、日本が第一志望国との回答が 59 人（48.4%）、日本は第一志望国ではなかったとの回答が 58 人（47.5%）となり、ほぼ同レベルの値を示した。

b. 中国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合

これに対し、中国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人（31 人）を対象とした場合は、日本が第一志望国との回答が 18 人（58.1%）となり、中国人科学技術人材全体を対象とした場合に比べ、9.7 ポイント高くなった。一方、日本は第一志望国ではなかったとの回答は 11 人（35.5%）となり、12.0 ポイント低くなった。

c. 中国人科学技術人材で、役職が「ポストドクター」に該当する人を対象とした場合

中国人科学技術人材で、役職が「ポストドクター」に該当する人（49 人）を対象とした場合は、日本が第一志望国との回答が 20 人（40.8%）となり、中国人科学技術人材全体を対象とした場合に比べ、7.6 ポイント低くなった。一方、日本は第一志望国ではなかったとの回答は 28 人（57.1%）となり、9.6 ポイント高くなった。

(2) 日本を選択した理由

「研究活動の場として日本を選択した理由」という質問については、複数選択方式の回答結果から、評価指標毎に、以下のような回答分布が得られることが分かった。

a. 中国人科学技術人材全体を対象とした場合

最も回答が多かった理由は「研究施設や研究設備が充実しているため；51 人（41.8%）」、次いで「対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高いため；49 人（40.2%）」、「自国での指導教官や上司から推薦されたため；46 人（37.7%）」、「文化的に親しみがもてるため；45 人（36.9%）」、「地理的に近く、行き来しやすいため；37 人（30.3%）」の順番となった。

b. 中国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合

最も回答が多かった理由は「研究施設や研究設備が充実しているため；13 人（41.9%）」、「対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高いため；13 人（41.9%）」、「文化的に親しみがもてるため；13 人（41.9%）」、「地理的に近く、行き来しやすいため；13 人（41.9%）」次いで「国費留学での「日本」の割り当て枠が得られたため；9 人（29.0%）」の順番となった。

c. 中国人科学技術人材で、役職が「ポストドクター」に該当する人を対象とした場合

最も回答が多かった理由は「自国での指導教官や上司から推薦されたため；27人（55.1%）」、次いで「研究施設や研究設備が充実しているため；23人（46.9%）」、「対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高いため；20人（40.8%）」、「文化的に親しみがもてるため；15人（30.6%）」、「有名な研究者の下で研究できるため；13人（26.5%）」の順番となった。

「日本での研究活動を選択した理由」に関するクロス分析結果の詳細を、以下にまとめて示した。

設問：海外での研究活動を考える際に、「日本」は、あなたの第一志望国でしたか。

□1. はい

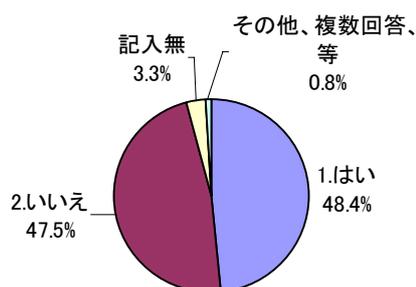
□2. いいえ → 第一志望はどこの国あるいは地域でしたか。

(記入：)

(1) 第一志望国

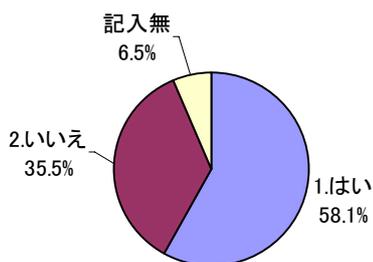
① 中国人／全体

第1志望国	有効回答数(人)	%
1.はい	59	48.4
2.いいえ	58	47.5
記入無	4	3.3
その他、複数回答、等	1	0.8
合計	122	100.0



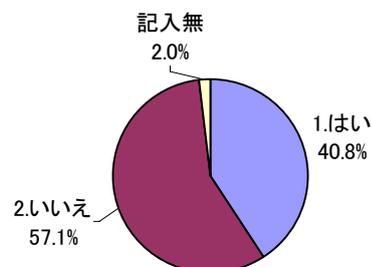
② 中国人／教授、助教授、講師、助手

第1志望国	有効回答数(人)	%
1.はい	18	58.1
2.いいえ	11	35.5
記入無	2	6.5
合計	31	100.0



③ 中国人／ポストドクター

第1志望国	有効回答数(人)	%
1.はい	20	40.8
2.いいえ	28	57.1
記入無	1	2.0
合計	49	100.0



設問：なぜ日本での研究活動を選択しましたか。その理由を以下の項目から選択して下さい。（該当する項目を全てチェック）

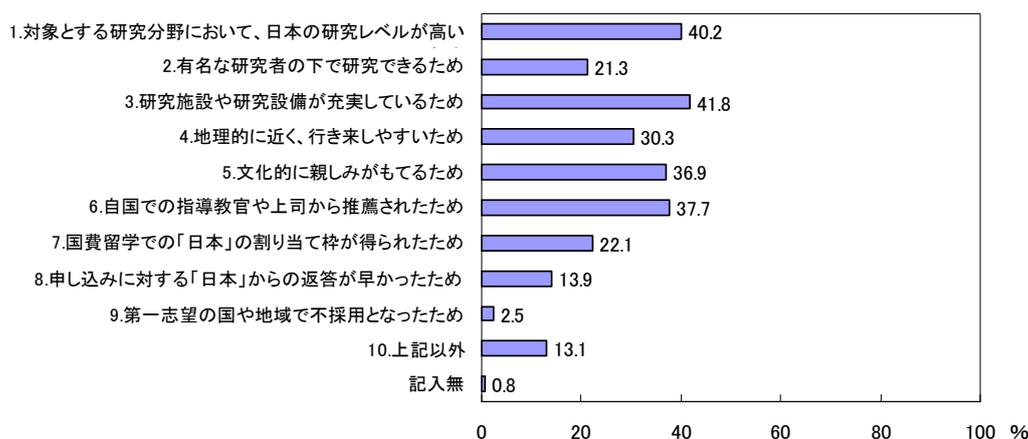
- 1. 対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高いため
- 2. 有名な研究者の下で研究できるため
- 3. 研究施設や研究設備が充実しているため
- 4. 地理的に近く、行き来しやすいため
- 5. 文化的に親しみがもてるため
- 6. 自国での指導教官や上司から推薦されたため
- 7. 国費留学での「日本」の割り当て枠が得られたため
- 8. 申し込みに対する「日本」からの返答が早かったため
- 9. 第一志望の国や地域で不採用となったため
- 10. 上記以外 記入：（記入： ）

(2) 日本を選択した理由

①中国人／全体

日本での研究活動を選択した理由	有効回答数(人)	%
1.対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高いため	49	40.2
2.有名な研究者の下で研究できるため	26	21.3
3.研究施設や研究設備が充実しているため	51	41.8
4.地理的に近く、行き来しやすいため	37	30.3
5.文化的に親しみがもてるため	45	36.9
6.自国での指導教官や上司から推薦されたため	46	37.7
7.国費留学での「日本」の割り当て枠が得られたため	27	22.1
8.申し込みに対する「日本」からの返答が早かったため	17	13.9
9.第一志望の国や地域で不採用となったため	3	2.5
10.上記以外	16	13.1
記入無	1	0.8

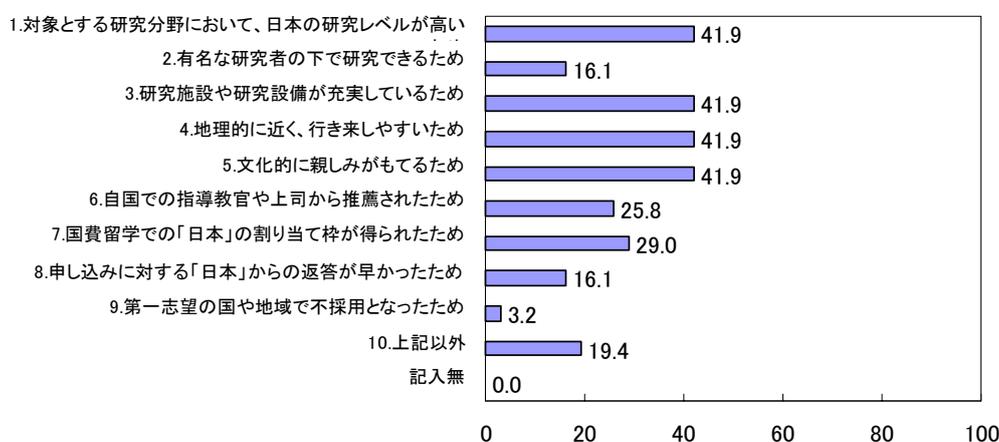
N=122



②中国人／教授、助教授、講師、助手

日本での研究活動を選択した理由	有効回答数(人)	%
1.対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高いため	13	41.9
2.有名な研究者の下で研究できるため	5	16.1
3.研究施設や研究設備が充実しているため	13	41.9
4.地理的に近く、行き来しやすいため	13	41.9
5.文化的に親しみがもてるため	13	41.9
6.自国での指導教官や上司から推薦されたため	8	25.8
7.国費留学での「日本」の割り当て枠が得られたため	9	29.0
8.申し込みに対する「日本」からの返答が早かったため	5	16.1
9.第一志望の国や地域で不採用となったため	1	3.2
10.上記以外	6	19.4
記入無	0	0.0

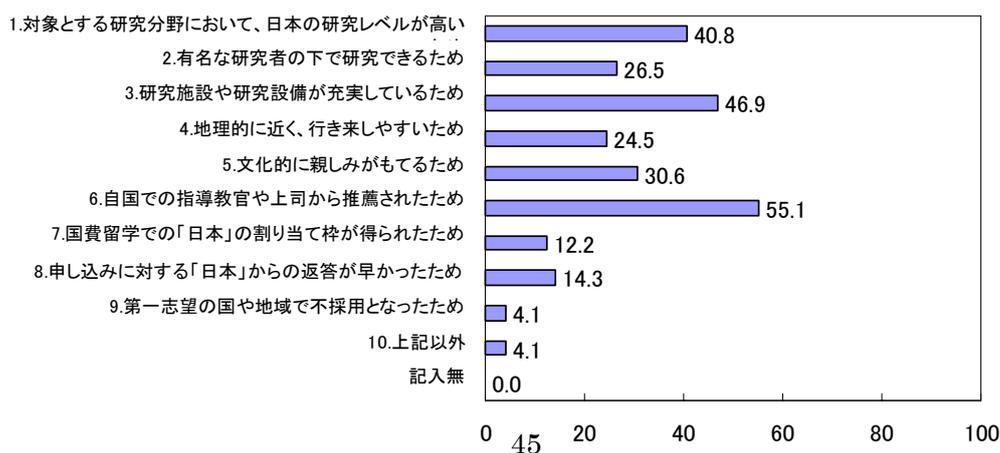
N=31



③中国人／ポストドクター

日本での研究活動を選択した理由	有効回答数(人)	%
1.対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高いため	20	40.8
2.有名な研究者の下で研究できるため	13	26.5
3.研究施設や研究設備が充実しているため	23	46.9
4.地理的に近く、行き来しやすいため	12	24.5
5.文化的に親しみがもてるため	15	30.6
6.自国での指導教官や上司から推薦されたため	27	55.1
7.国費留学での「日本」の割り当て枠が得られたため	6	12.2
8.申し込みに対する「日本」からの返答が早かったため	7	14.3
9.第一志望の国や地域で不採用となったため	2	4.1
10.上記以外	2	4.1
記入無	0	0.0

N=49



1. 2 研究活動の契機となった制度や仕組み

「日本での研究活動の契機となった制度や仕組み」についてクロス分析を行い、以下の結果が得られる。

a. 中国人科学技術人材全体を対象とした場合

最も多い回答は「日本機関からの研究ポスト等の提供；61人(50.0%)」となり、「私費留学(来日前には日本での奨学金を取得せず)；21人(17.2%)」「国費留学；21人(17.2%)」がこれに続いた。

b. 中国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合

最も多い回答は「国費留学；9人(29.0%)」となり、「日本機関からの研究ポスト等の提供；8人(25.8%)」、「私費留学(来日前には日本での奨学金を取得せず)；8人(25.8%)」がこれに続いた。

c. 中国人科学技術人材で、役職が「ポストドクター」に該当する人を対象とした場合

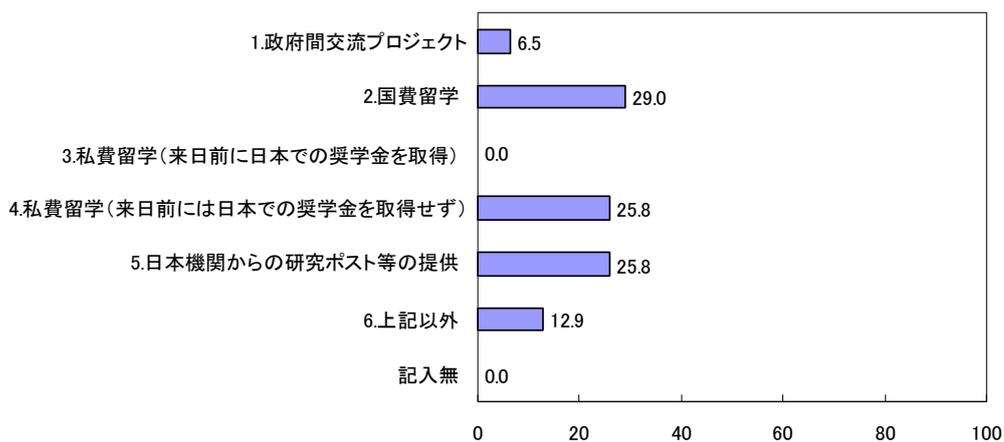
最も多い回答は「日本機関からの研究ポスト等の提供；37人(75.5%)」となり、次いで「国費留学；7人(14.3%)」、「私費留学(来日前には日本での奨学金を取得せず)；4人(8.2%)」の順番となった。

「研究活動の契機となった制度や仕組み」に関するクロス分析結果の詳細を、次頁以降にまとめて示した。

②中国人／教授、助教授、講師、助手

日本での研究活動の制度・枠組み	有効回答数(人)	%
1.政府間交流プロジェクト	2	6.5
2.国費留学	9	29.0
3.私費留学(来日前に日本での奨学金を取得)	0	0.0
4.私費留学(来日前には日本での奨学金を取得せず)	8	25.8
5.日本機関からの研究ポスト等の提供	8	25.8
6.上記以外	4	12.9
記入無	0	0.0

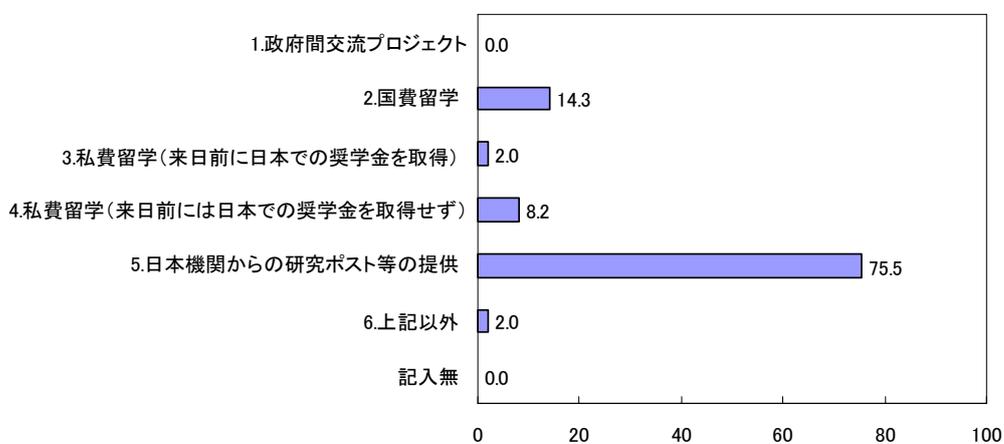
N=31



③中国人／ポストドクター

日本での研究活動の制度・枠組み	有効回答数(人)	%
1.政府間交流プロジェクト	0	0.0
2.国費留学	7	14.3
3.私費留学(来日前に日本での奨学金を取得)	1	2.0
4.私費留学(来日前には日本での奨学金を取得せず)	4	8.2
5.日本機関からの研究ポスト等の提供	37	75.5
6.上記以外	1	2.0
記入無	0	0.0

N=49



1. 3 研究活動について良いと感じられる点

「日本での研究活動について良いと感じられる点」についてクロス分析を行い、複数選択方式の回答から、評価指標毎の回答分布をまとめると、以下のような結果が得られる。

a. 中国人科学技術人材全体を対象とした場合

最も多い回答は「研究施設や研究設備が充実している；95人(77.9%)」となり、次いで「研究費が潤沢にあり、研究に専念できる；86人(70.5%)」、「最新の研究情報が得られること；57人(46.7%)」、「研究レベルが高い；50人(41.0%)」の順番となった。

b. 中国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合

最も多い回答は「研究施設や研究設備が充実している；22人(71.0%)」と「研究費が潤沢にあり、研究に専念できる；22人(71.0%)」になり、次いで「最新の研究情報が得られること；12人(38.7%)」の順番となった。

c. 中国人科学技術人材で、役職が「ポストドクター」に該当する人を対象とした場合

最も多い回答は「研究施設や研究設備が充実している；41人(83.7%)」となり、次いで「研究費が潤沢にあり、研究に専念できる；38人(77.6%)」の順番となった。

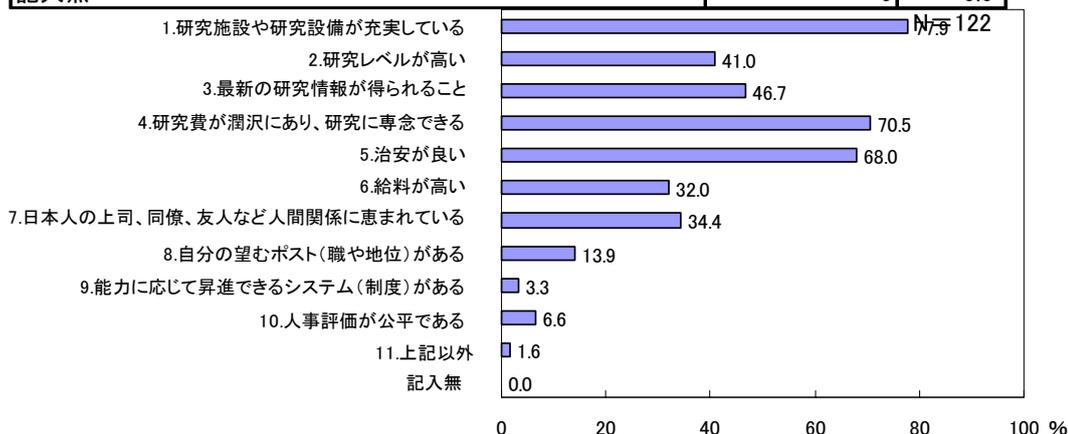
「研究活動について良いと感じられる点」に関するクロス分析結果の詳細を、次頁以降にまとめて示した。

設問：実際に日本での研究活動を行ってみて、良いと感じられる点は何ですか。以下の項目から選択してください。（該当する項目を全てチェック）

- 1. 研究施設や研究設備が充実している
- 2. 研究レベルが高い
- 3. 最新の研究情報が得られること
- 4. 研究費が潤沢にあり、研究に専念できる
- 5. 治安が良い
- 6. 給料が高い
- 7. 日本人の上司、同僚、友人など人間関係に恵まれている
- 8. 自分の望むポスト（職や地位）がある
- 9. 能力に応じて昇進できるシステム（制度）がある
- 10. 人事評価が公平である
- 11. 上記以外 記入：（ ）

①中国人／全体

良いと感じられる点	有効回答数(人)	%
1.研究施設や研究設備が充実している	95	77.9
2.研究レベルが高い	50	41.0
3.最新の研究情報が得られること	57	46.7
4.研究費が潤沢にあり、研究に専念できる	86	70.5
5.治安が良い	83	68.0
6.給料が高い	39	32.0
7.日本人の上司、同僚、友人など人間関係に恵まれている	42	34.4
8.自分の望むポスト(職や地位)がある	17	13.9
9.能力に応じて昇進できるシステム(制度)がある	4	3.3
10.人事評価が公平である	8	6.6
11.上記以外	2	1.6
記入無	0	0.0



②中国人／教授、助教授、講師、助手



③中国人／ポストドクター



1. 4 研究活動について負担に感じられる点

「日本での研究活動について負担に感じられる点」についてクロス分析を行い、複数選択方式の回答から、評価指標毎の回答分布をまとめると、以下のような結果が得られる。

a. 中国人科学技術人材全体を対象とした場合

最も多い回答は「日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる；60人(49.2%)」と「雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がる；60人(49.2%)」になり、次いで「日本での生活は、子供の教育面で不安がある；49人(40.2%)」、「活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い；46人(37.7%)」、「自分の希望するポストに、なかなか就くことができない；45人(36.9%)」、「配偶者の就業場所が、なかなか見つからない；41人(33.6%)」の順番となった。

b. 中国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合

最も多い回答は「日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる；14人(45.2%)」と「配偶者の就業場所が、なかなか見つからない；14人(45.2%)」となり、「日本での生活は、子供の教育面で不安がある；12人(38.7%)」がこれに続いた。

c. 中国人科学技術人材で、役職が「ポストドクター」に該当する人を対象とした場合

最も多い回答は「雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がる；34人(69.4%)」となり、次いで「活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い；27人(55.1%)」、「日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる；24人(49.0%)」、「自分の希望するポストに、なかなか就くことができない；22人(44.9%)」の順番となった。

「研究活動について負担に感じられる点」に関するクロス分析結果の詳細を、次頁以降にまとめて示した。

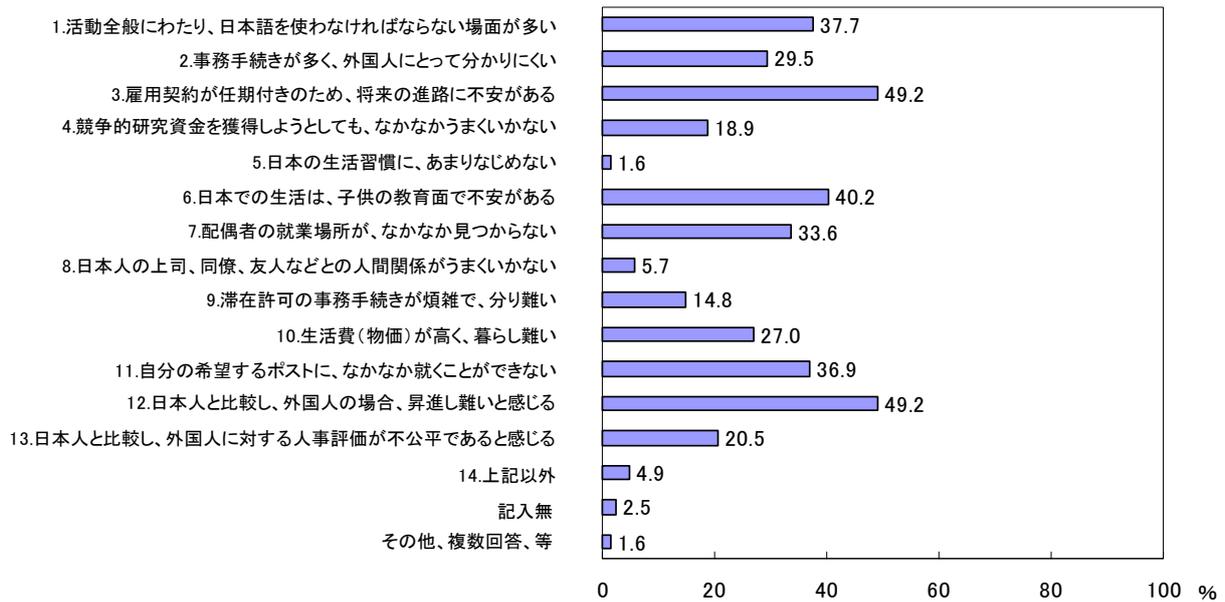
設問：実際に日本での研究活動を行ってみて、負担に感じられる点は何ですか。以下の項目から選択してください。（該当する項目を全てチェック）

- 1. 活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い
- 2. 事務手続きが多く、外国人にとって分かりにくい
- 3. 雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がある
- 4. 競争的研究資金を獲得しようとしても、なかなかうまくいかない
- 5. 日本の生活習慣に、あまりなじめない
- 6. 日本での生活は、子供の教育面で不安がある
- 7. 配偶者の就業場所が、なかなか見つからない
- 8. 日本人の上司、同僚、友人などとの人間関係がうまくいかない
- 9. 滞在許可の事務手続きが煩雑で、分り難い
- 10. 生活費（物価）が高く、暮らし難い
- 11. 自分の希望するポストに、なかなか就くことができない
- 12. 日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる
- 13. 日本人と比較し、外国人に対する人事評価が不公平であると感じる
- 14. 上記以外 記入：（ ）

①中国人／全体

負担に感じられる点	有効回答数(人)	%
1.活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い	46	37.7
2.事務手続きが多く、外国人にとって分かりにくい	36	29.5
3.雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がある	60	49.2
4.競争的研究資金を獲得しようとしても、なかなかうまくいかない	23	18.9
5.日本の生活習慣に、あまりなじめない	2	1.6
6.日本での生活は、子供の教育面で不安がある	49	40.2
7.配偶者の就業場所が、なかなか見つからない	41	33.6
8.日本人の上司、同僚、友人などとの人間関係がうまくいかない	7	5.7
9.滞在許可の事務手続きが煩雑で、分り難い	18	14.8
10.生活費(物価)が高く、暮らし難い	33	27.0
11.自分の希望するポストに、なかなか就くことができない	45	36.9
12.日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる	60	49.2
13.日本人と比較し、外国人に対する人事評価が不公平であると感じる	25	20.5
14.上記以外	6	4.9
記入無	3	2.5
その他、複数回答、等	2	1.6

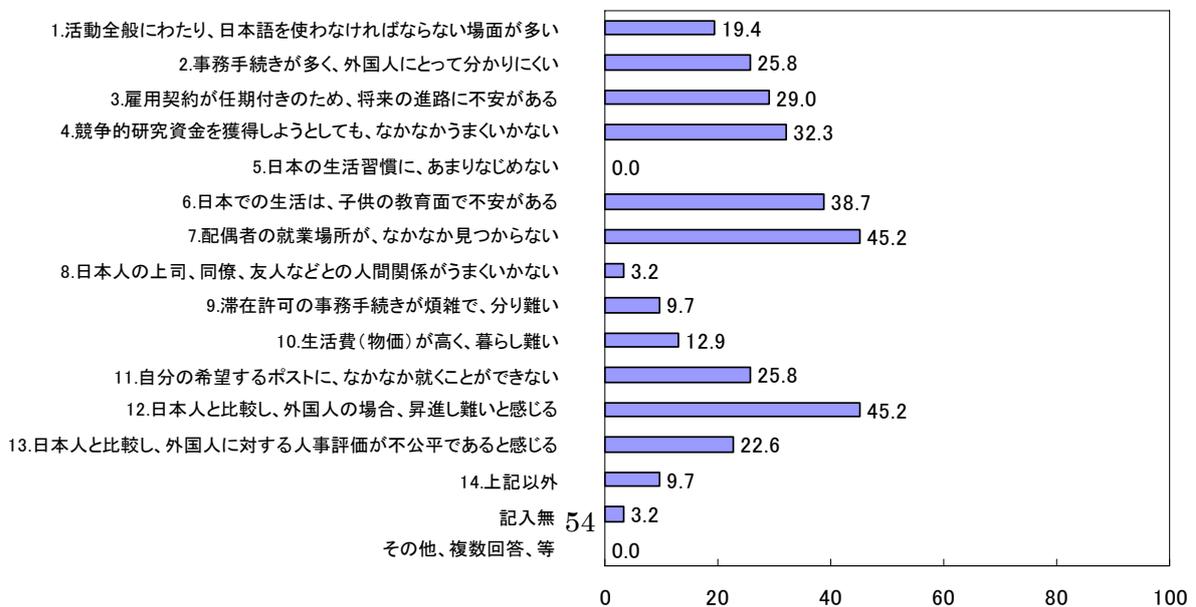
N=122



②中国人／教授、助教授、講師、助手

負担に感じられる点	有効回答数(人)	%
1.活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い	6	19.4
2.事務手続きが多く、外国人にとって分かりにくい	8	25.8
3.雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がある	9	29.0
4.競争的研究資金を獲得しようとしても、なかなかうまくいかない	10	32.3
5.日本の生活習慣に、あまりなじめない	0	0.0
6.日本での生活は、子供の教育面で不安がある	12	38.7
7.配偶者の就業場所が、なかなか見つからない	14	45.2
8.日本人の上司、同僚、友人などの人間関係がうまくいかない	1	3.2
9.滞在許可の事務手続きが煩雑で、分り難い	3	9.7
10.生活費(物価)が高く、暮らし難い	4	12.9
11.自分の希望するポストに、なかなか就くことができない	8	25.8
12.日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる	14	45.2
13.日本人と比較し、外国人に対する人事評価が不公平であると感じる	7	22.6
14.上記以外	3	9.7
記入無	1	3.2
その他、複数回答、等	0	0.0

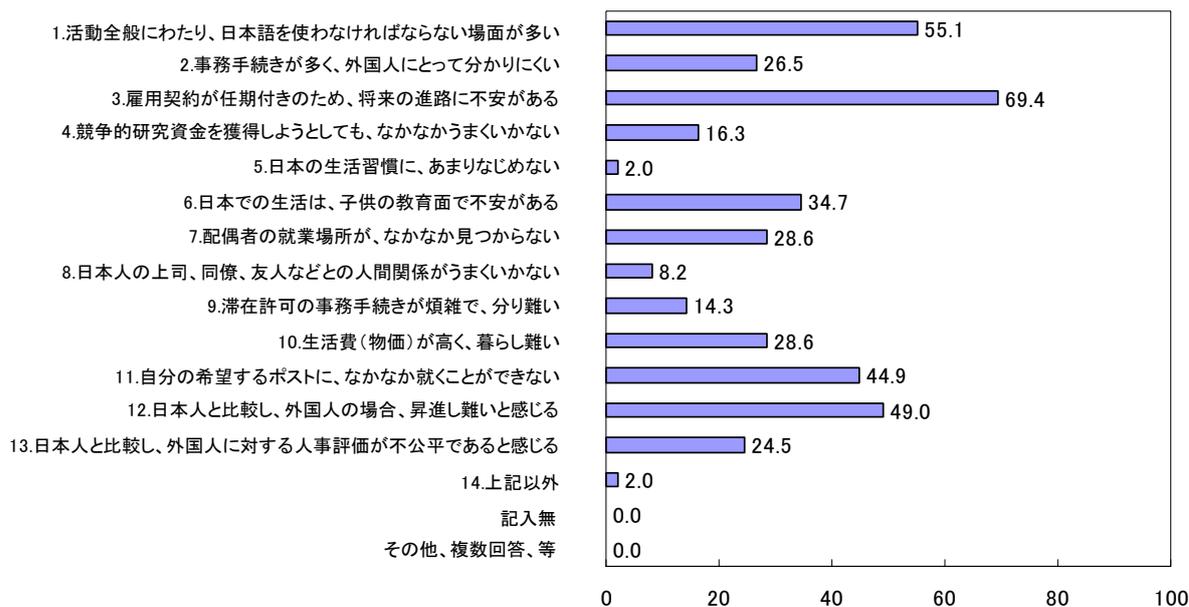
N=31



③ 中国人／ポストドクター

負担に感じられる点	有効回答数(人)	%
1.活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い	27	55.1
2.事務手続きが多く、外国人にとって分かりにくい	13	26.5
3.雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がある	34	69.4
4.競争的研究資金を獲得しようとしても、なかなかうまくいかない	8	16.3
5.日本の生活習慣に、あまりなじめない	1	2.0
6.日本での生活は、子供の教育面で不安がある	17	34.7
7.配偶者の就業場所が、なかなか見つからない	14	28.6
8.日本人の上司、同僚、友人などとの人間関係がうまくいかない	4	8.2
9.滞在許可の事務手続きが煩雑で、分り難い	7	14.3
10.生活費(物価)が高く、暮らし難い	14	28.6
11.自分の希望するポストに、なかなか就くことができない	22	44.9
12.日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる	24	49.0
13.日本人と比較し、外国人に対する人事評価が不公平であると感じる	12	24.5
14.上記以外	1	2.0
記入無	0	0.0
その他、複数回答、等	0	0.0

N=49



2. 年齢を評価指標としたクロス分析

本節では、アンケートで得られた「中国人科学技術人材による回答」の特徴について、「年齢」に基づく比較分析を行った。有効回答数の多い「30歳代」と「40歳代」を重点対象とし、年齢層を4つに区分した上で、グループ毎の回答に見られる特徴を把握した。

- ・評価指標①；中国人科学技術人材で、年齢が「29歳以下」の人を対象とした場合
- ・評価指標②；中国人科学技術人材で、年齢が「30歳～39歳」の人を対象とした場合
- ・評価指標③；中国人科学技術人材で、年齢が「40歳～49歳」の人を対象とした場合
- ・評価指標④；中国人科学技術人材で、年齢が「50歳以上」の人を対象とした場合

2. 1 日本での研究活動を選択した理由

「日本での研究活動を選択した理由」についてクロス分析を行うと、次のような結果となる。

(1) 第一志望国

「海外での研究活動を考える際の第一志望国はどこであったか」という質問については、評価指標毎に、以下のような回答分布が得られることが分かった。

a. 中国人科学技術人材全体を対象とした場合

中国人科学技術人材の回答者全体（122人）を対象とした場合は、日本が第一志望国との回答が59人（48.4%）、日本は第一志望国ではなかったとの回答が58人（47.5%）となり、ほぼ同レベルの値を示した。

b. 中国人科学技術人材で、年齢が「29歳以下」の人を対象とした場合

中国人科学技術人材で、年齢が「29歳以下」の人（13人）を対象とした場合は、日本が第一志望国との回答が9人（69.2%）となり、中国人科学技術人材全体を対象とした場合に比べ、20.8ポイント高くなった。一方、日本は第一志望国ではなかったとの回答は4人（30.8%）となり、16.7ポイント低くなった。

c. 中国人科学技術人材で、年齢が「30歳～39歳」の人を対象とした場合

中国人科学技術人材で、年齢が「30歳～39歳」の人（62人）を対象とした場合は、日本が第一志望国との回答が23人（37.1%）となり、中国人科学技術人材全体を対象とした場合に比べ、11.3ポイント低くなった。一方、日本は第一志望国ではなかったとの回答は37人（59.7%）となり、12.2ポイント高くなった。

d. 中国人科学技術人材で、年齢が「40歳～49歳」の人を対象とした場合

中国人科学技術人材で、年齢が「40歳～49歳」の人（38人）を対象とした場合は、日本が第一志望国との回答が23人（60.5%）となり、中国人科学技術人材全体を対象とした場合に比べ、12.1ポイント高くなった。一方、日本は第一志望国ではなかったとの回答は13人（34.2%）となり、13.1ポイント低くなった。

e. 中国人科学技術人材で、年齢が「50歳以上」の人を対象とした場合

中国人科学技術人材で、年齢が「50歳以上」の人（6人）を対象とした場合は、日本が第一志望国との回答が4人（66.7%）となり、中国人科学技術人材全体を対象とした場合に比べ、18.3ポイント高くなった。一方、日本は第一志望国ではなかったとの回答は2人（33.3%）となり、14.2ポイント低くなった。

(2) 日本を選択した理由

「研究活動の場として日本を選択した理由」という質問については、複数選択方式の回答結果から、評価指標毎に、以下のような回答分布が得られることが分かった。

a. 中国人科学技術人材全体を対象とした場合

最も回答が多かった理由は「研究施設や研究設備が充実しているため；51人（41.8%）」、次いで「対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高いため；49人（40.2%）」、「自国での指導教官や上司から推薦されたため；46人（37.7%）」、「文化的に親しみがもてるため；45人（36.9%）」、「地理的に近く、行き来しやすいため；37人（30.3%）」の順番となった。

b. 中国人科学技術人材で、年齢が「29歳以下」の人を対象とした場合

最も回答が多かった理由は「自国での指導教官や上司から推薦されたため；7人（53.8%）」、次いで「対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高いため；6人（46.2%）」、「文化的に親しみがもてるため；6人（46.2%）」、「研究施設や研究設備が充実しているため；5人（38.5%）」、「地理的に近く、行き来しやすいため；5人（38.5%）」の順番となった。

- c. 中国人科学技術人材で、年齢が「30歳～39歳」の人を対象とした場合
最も回答が多かった理由は「研究施設や研究設備が充実しているため;33人(53.2%)」、
次いで「対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高いため;30人(48.4%)」、
「自国での指導教官や上司から推薦されたため;28人(45.2%)」、「文化的に親しみがもてるため;25人(40.3%)」、「地理的に近く、行き来しやすいため;21人(33.9%)」
の順番となった。
- d. 中国人科学技術人材で、年齢が「40歳～49歳」の人を対象とした場合
最も回答が多かった理由は「対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高い
ため;12人(31.6%)」、「研究施設や研究設備が充実しているため;12人(31.6%)」、
「文化的に親しみがもてるため;12人(31.6%)」、「国費留学での「日本」の割り当
て枠が得られたため;12人(31.6%)」となった。
- e. 中国人科学技術人材で、年齢が「50歳以上」の人を対象とした場合
最も回答が多かった理由は「文化的に親しみがもてるため;2人(33.3%)」となっ
た。

「日本での研究活動を選択した理由」に関するクロス分析結果の詳細を、次頁以降に
まとめて示した。

設問：海外での研究活動を考える際に、「日本」は、あなたの第一志望国でしたか。

1. はい

2. いいえ → 第一志望はどこの国あるいは地域でしたか。

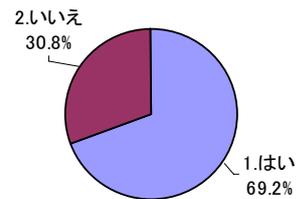
(記入：)

(1) 第一志望国

① 中国人／29歳以下

第1志望国	有効回答数(人)	%
1.はい	9	69.2
2.いいえ	4	30.8
合計	13	100.0

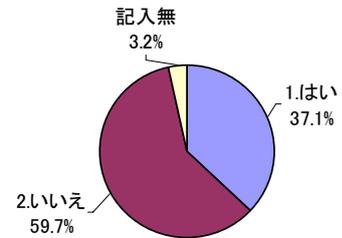
N=13



② 中国人／30～39歳

第1志望国	有効回答数(人)	%
1.はい	23	37.1
2.いいえ	37	59.7
記入無	2	3.2
合計	62	100.0

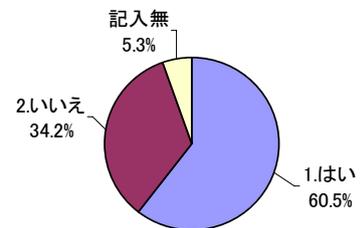
N=62



③ 中国人／40～49歳

第1志望国	有効回答数(人)	%
1.はい	23	60.5
2.いいえ	13	34.2
記入無	2	5.3
合計	38	100.0

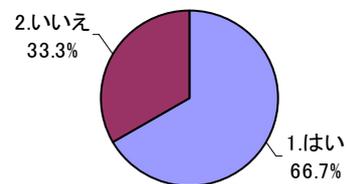
N=38



④ 中国人／50歳以上

第1志望国	有効回答数(人)	%
1.はい	4	66.7
2.いいえ	2	33.3
合計	6	100.0

N=6



設問：なぜ日本での研究活動を選択しましたか。その理由を以下の項目から選択して下さい。（該当する項目を全てチェック）

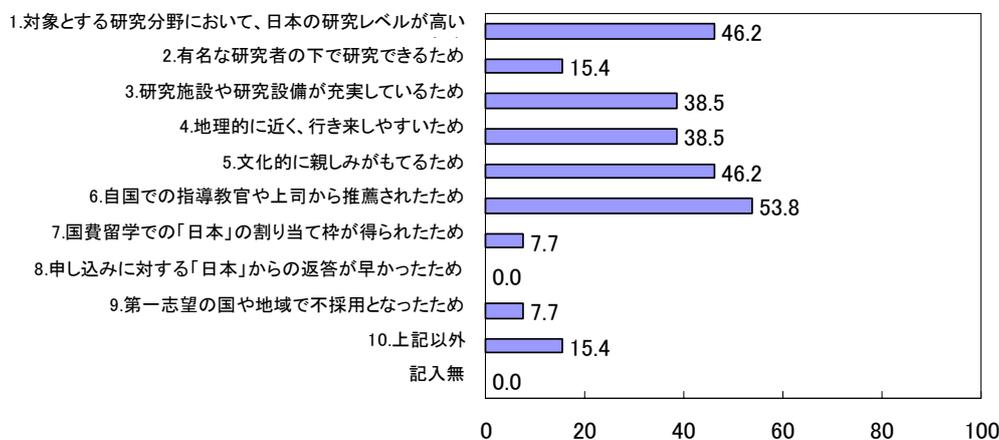
- 1. 対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高いため
- 2. 有名な研究者の下で研究できるため
- 3. 研究施設や研究設備が充実しているため
- 4. 地理的に近く、行き来しやすいため
- 5. 文化的に親しみがもてるため
- 6. 自国での指導教官や上司から推薦されたため
- 7. 国費留学での「日本」の割り当て枠が得られたため
- 8. 申し込みに対する「日本」からの返答が早かったため
- 9. 第一志望の国や地域で不採用となったため
- 10. 上記以外 記入：（記入： ）

(2) 日本を選択した理由

① 中国人／29歳以下

日本での研究活動を選択した理由	有効回答数(人)	%
1.対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高いため	6	46.2
2.有名な研究者の下で研究できるため	2	15.4
3.研究施設や研究設備が充実しているため	5	38.5
4.地理的に近く、行き来しやすいため	5	38.5
5.文化的に親しみがもてるため	6	46.2
6.自国での指導教官や上司から推薦されたため	7	53.8
7.国費留学での「日本」の割り当て枠が得られたため	1	7.7
8.申し込みに対する「日本」からの返答が早かったため	0	0.0
9.第一志望の国や地域で不採用となったため	1	7.7
10.上記以外	2	15.4
記入無	0	0.0

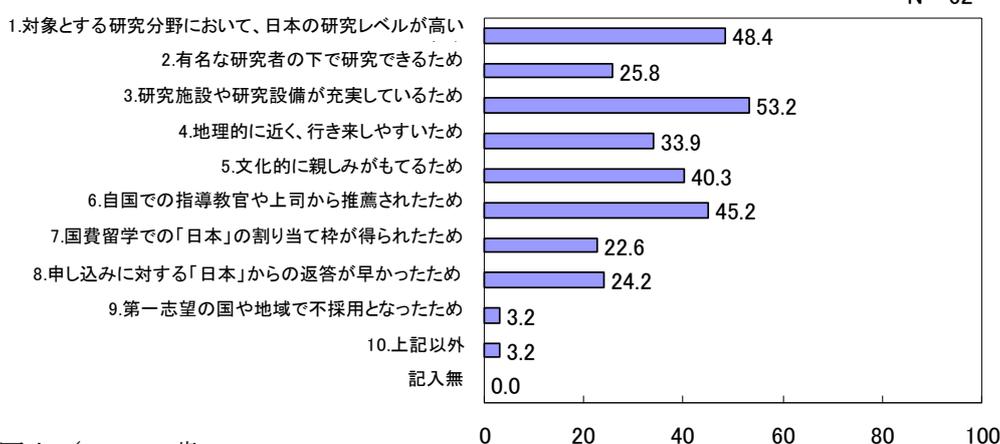
N=13



② 中国人／30～39 歳

日本での研究活動を選択した理由	有効回答数(人)	%
1.対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高いため	30	48.4
2.有名な研究者の下で研究できるため	16	25.8
3.研究施設や研究設備が充実しているため	33	53.2
4.地理的に近く、行き来しやすいため	21	33.9
5.文化的に親しみがもてるため	25	40.3
6.自国での指導教官や上司から推薦されたため	28	45.2
7.国費留学での「日本」の割り当て枠が得られたため	14	22.6
8.申し込みに対する「日本」からの返答が早かったため	15	24.2
9.第一志望の国や地域で不採用となったため	2	3.2
10.上記以外	2	3.2
記入無	0	0.0

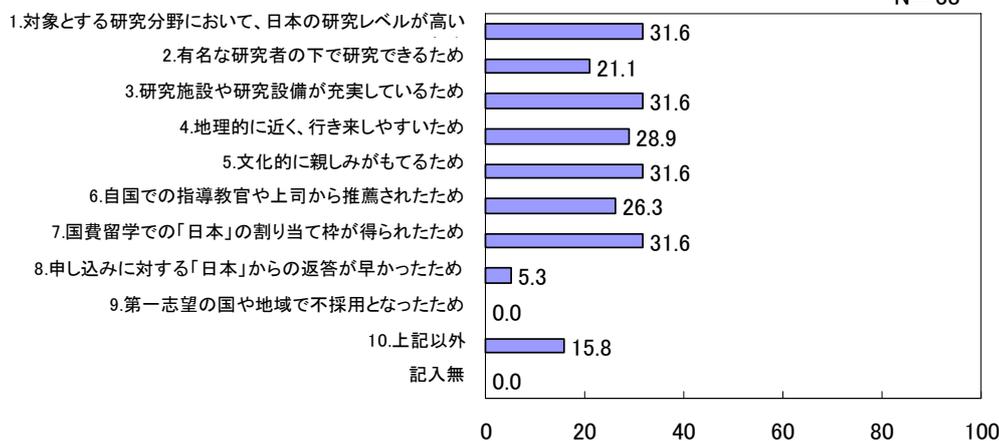
N=62



③ 中国人／40～49 歳

日本での研究活動を選択した理由	有効回答数(人)	%
1.対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高いため	12	31.6
2.有名な研究者の下で研究できるため	8	21.1
3.研究施設や研究設備が充実しているため	12	31.6
4.地理的に近く、行き来しやすいため	11	28.9
5.文化的に親しみがもてるため	12	31.6
6.自国での指導教官や上司から推薦されたため	10	26.3
7.国費留学での「日本」の割り当て枠が得られたため	12	31.6
8.申し込みに対する「日本」からの返答が早かったため	2	5.3
9.第一志望の国や地域で不採用となったため	0	0.0
10.上記以外	6	15.8
記入無	0	0.0

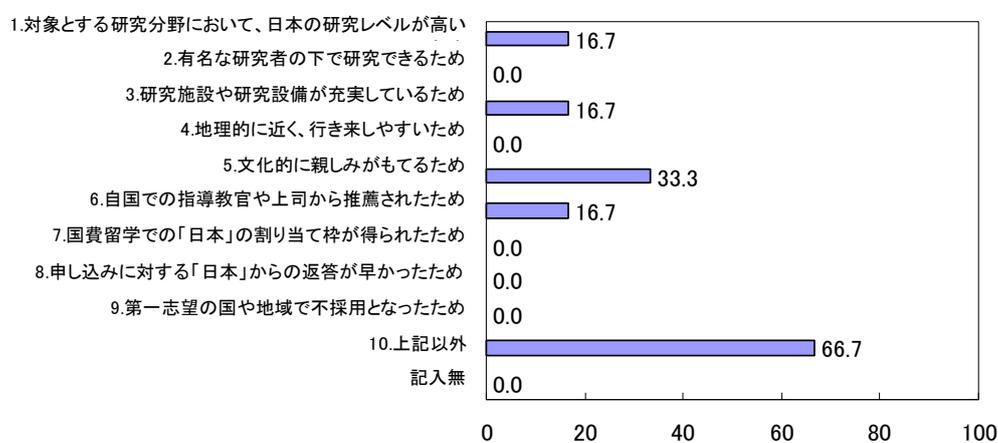
N=38



④ 中国人／50 歳以上

日本での研究活動を選択した理由	有効回答数(人)	%
1.対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高いため	1	16.7
2.有名な研究者の下で研究できるため	0	0.0
3.研究施設や研究設備が充実しているため	1	16.7
4.地理的に近く、行き来しやすいため	0	0.0
5.文化的に親しみがもてるため	2	33.3
6.自国での指導教官や上司から推薦されたため	1	16.7
7.国費留学での「日本」の割り当て枠が得られたため	0	0.0
8.申し込みに対する「日本」からの返答が早かったため	0	0.0
9.第一志望の国や地域で不採用となったため	0	0.0
10.上記以外	4	66.7
記入無	0	0.0

N=6



2. 2 研究活動の契機となった制度や仕組み

「日本での研究活動の契機となった制度や仕組み」についてクロス分析を行い、複数選択方式の回答から、評価指標毎の回答分布をまとめると、以下のような結果が得られる。

a. 中国人科学技術人材全体を対象とした場合

最も多い回答は「日本機関からの研究ポスト等の提供；61人(50.0%)」となり、「私費留学(来日前には日本での奨学金を取得せず)；21人(17.2%)」「国費留学；21人(17.2%)」がこれに続いた。

b. 中国人科学技術人材で、年齢が「29歳以下」の人を対象とした場合

最も多い回答は「日本機関からの研究ポスト等の提供；7人(53.8%)」となり、次いで「私費留学(来日前には日本での奨学金を取得せず)；4人(30.8%)」、「国費留学；2人(15.4%)」の順番となった。

c. 中国人科学技術人材で、年齢が「30歳～39歳」の人を対象とした場合

最も多い回答は「日本機関からの研究ポスト等の提供；37人(59.7%)」となり、「国費留学；9人(14.5%)」、「私費留学(来日前には日本での奨学金を取得せず)；9人(14.5%)」がこれに続いた。

d. 中国人科学技術人材で、年齢が「40歳～49歳」の人を対象とした場合

最も多い回答は「日本機関からの研究ポスト等の提供；13人(34.2%)」となり、次いで「国費留学；10人(26.3%)」、「私費留学(来日前には日本での奨学金を取得せず)；6人(15.8%)」の順番となった。

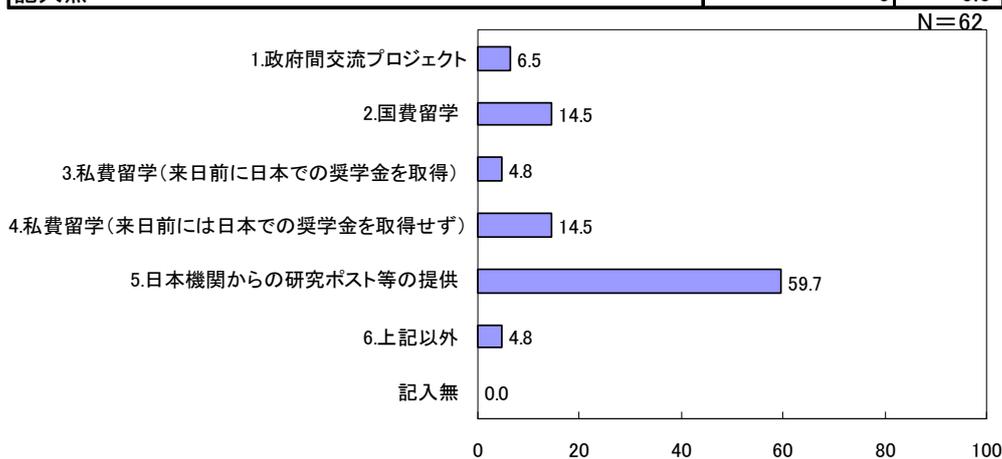
e. 中国人科学技術人材で、年齢が「50歳以上」の人を対象とした場合

最も多い回答は「日本機関からの研究ポスト等の提供；3人(50.0%)」となり、「私費留学(来日前には日本での奨学金を取得せず)；2人(33.3%)」がこれに続いた。

「研究活動の契機となった制度や仕組み」に関するクロス分析結果の詳細を、次頁以降にまとめて示した。

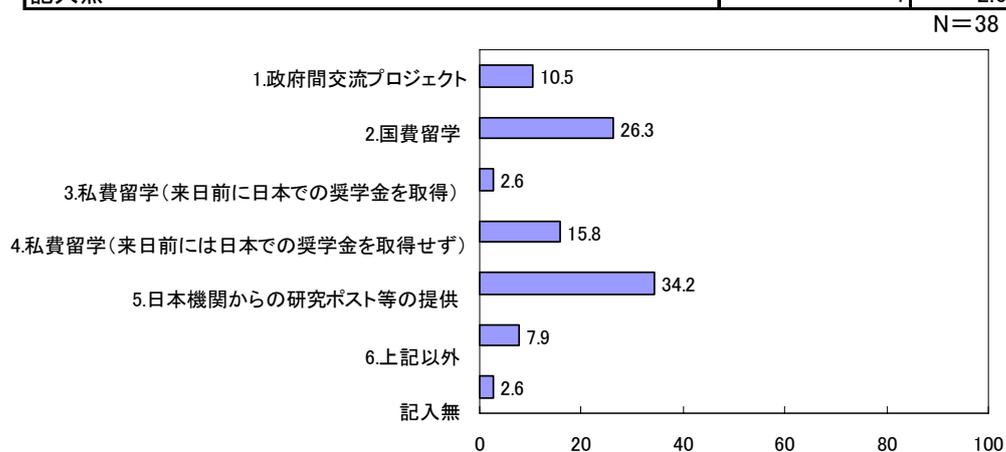
② 中国人／30～39 歳

日本での研究活動の制度・枠組み	有効回答数(人)	%
1.政府間交流プロジェクト	4	6.5
2.国費留学	9	14.5
3.私費留学(来日前に日本での奨学金を取得)	3	4.8
4.私費留学(来日前には日本での奨学金を取得せず)	9	14.5
5.日本機関からの研究ポスト等の提供	37	59.7
6.上記以外	3	4.8
記入無	0	0.0



③ 中国人／40～49 歳

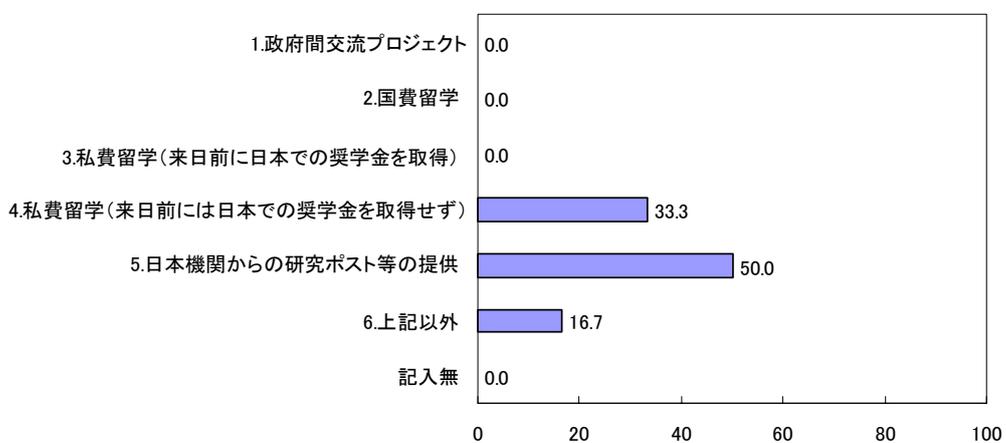
日本での研究活動の制度・枠組み	有効回答数(人)	%
1.政府間交流プロジェクト	4	10.5
2.国費留学	10	26.3
3.私費留学(来日前に日本での奨学金を取得)	1	2.6
4.私費留学(来日前には日本での奨学金を取得せず)	6	15.8
5.日本機関からの研究ポスト等の提供	13	34.2
6.上記以外	3	7.9
記入無	1	2.6



④ 中国人／50 歳以上

日本での研究活動の制度・枠組み	有効回答数(人)	%
1.政府間交流プロジェクト	0	0.0
2.国費留学	0	0.0
3.私費留学(来日前に日本での奨学金を取得)	0	0.0
4.私費留学(来日前には日本での奨学金を取得せず)	2	33.3
5.日本機関からの研究ポスト等の提供	3	50.0
6.上記以外	1	16.7
記入無	0	0.0

N=6



2. 3 研究活動について良いと感じられる点

「日本での研究活動について良いと感じられる点」についてクロス分析を行い、複数選択方式の回答から、評価指標毎の回答分布をまとめると、以下のような結果が得られる。

a. 中国人科学技術人材全体を対象とした場合

最も多い回答は「研究施設や研究設備が充実している；95人(77.9%)」となり、次いで「研究費が潤沢にあり、研究に専念できる；86人(70.5%)」、「治安が良い；83人(68.0%)」、「最新の研究情報が得られること；57人(46.7%)」、「研究レベルが高い；50人(41.0%)」の順番となった。

b. 中国人科学技術人材で、年齢が「29歳以下」の人を対象とした場合

最も多い回答は「研究施設や研究設備が充実している；12人(92.3%)」となり、次いで「研究費が潤沢にあり、研究に専念できる；10人(76.9%)」、「治安が良い；9人(69.2%)」、「研究レベルが高い；6人(46.2%)」の順番となった。

c. 中国人科学技術人材で、年齢が「30歳～39歳」の人を対象とした場合

最も多い回答は「研究施設や研究設備が充実している；49人(79.0%)」「治安が良い；49人(79.0%)」となり、次いで「研究費が潤沢にあり、研究に専念できる；47人(75.8%)」、「最新の研究情報が得られる；29人(46.8%)」、「研究レベルが高い；26人(41.9%)」の順番となった。

d. 中国人科学技術人材で、年齢が「40歳～49歳」の人を対象とした場合

最も多い回答は「研究施設や研究設備が充実している；30人(78.9%)」となり、次いで「研究費が潤沢にあり、研究に専念できる；26人(68.4%)」、「最新の研究情報が得られる；22人(57.9%)」、「治安が良い；22人(57.9%)」の順番となった。

e. 中国人科学技術人材で、年齢が「50歳以上」の人を対象とした場合

最も多い回答は「研究費が潤沢にあり、研究に専念できる；3人(50.0%)」「自分の望むポスト(職や地位)がある；3人(50.0%)」となった。

「研究活動について良いと感じられる点」に関するクロス分析結果の詳細を、次頁以降にまとめて示した。

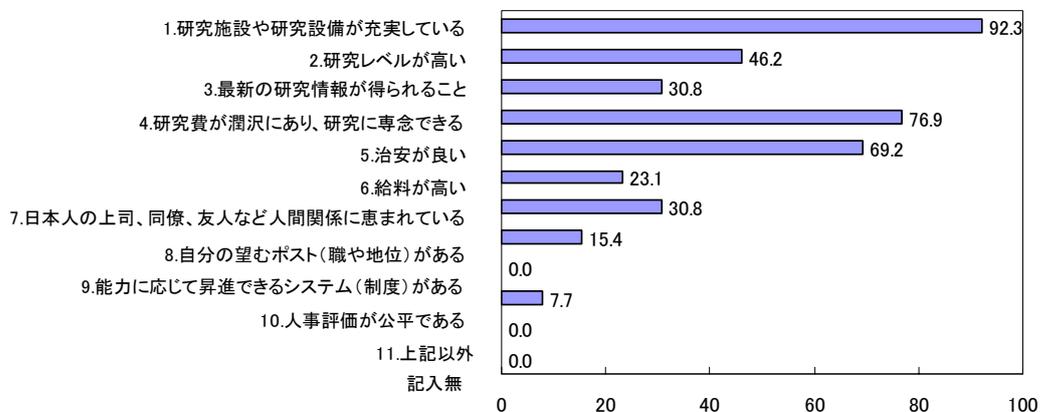
設問：実際に日本での研究活動を行ってみて、良いと感じられる点は何ですか。以下の項目から選択してください。（該当する項目を全てチェック）

- 1. 研究施設や研究設備が充実している
- 2. 研究レベルが高い
- 3. 最新の研究情報が得られること
- 4. 研究費が潤沢にあり、研究に専念できる
- 5. 治安が良い
- 6. 給料が高い
- 7. 日本人の上司、同僚、友人など人間関係に恵まれている
- 8. 自分の望むポスト（職や地位）がある
- 9. 能力に応じて昇進できるシステム（制度）がある
- 10. 人事評価が公平である
- 11. 上記以外 記入：（ ）

①中国人／29歳以下

良いと感じられる点	有効回答数(人)	%
1.研究施設や研究設備が充実している	12	92.3
2.研究レベルが高い	6	46.2
3.最新の研究情報が得られること	4	30.8
4.研究費が潤沢にあり、研究に専念できる	10	76.9
5.治安が良い	9	69.2
6.給料が高い	3	23.1
7.日本人の上司、同僚、友人など人間関係に恵まれている	4	30.8
8.自分の望むポスト(職や地位)がある	2	15.4
9.能力に応じて昇進できるシステム(制度)がある	0	0.0
10.人事評価が公平である	1	7.7
11.上記以外	0	0.0
記入無	0	0.0

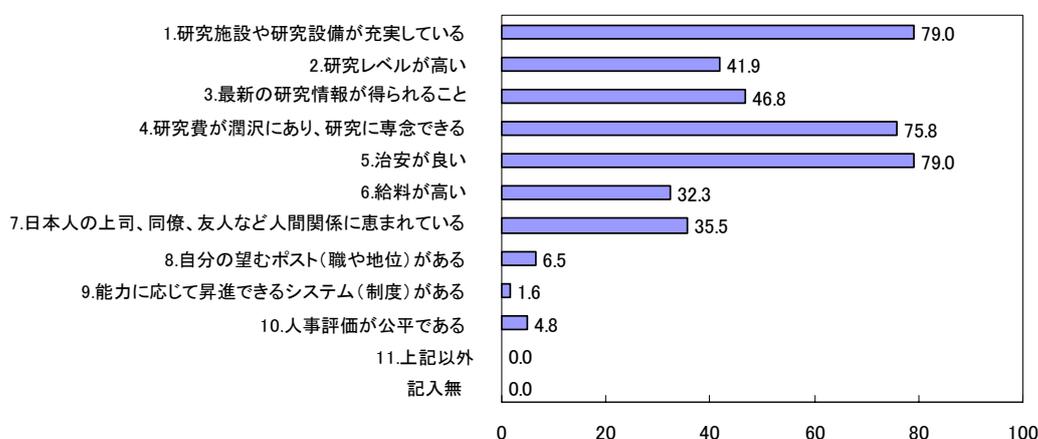
N=13



② 中国人／30～39 歳

良いと感じられる点	有効回答数(人)	%
1.研究施設や研究設備が充実している	49	79.0
2.研究レベルが高い	26	41.9
3.最新の研究情報が得られること	29	46.8
4.研究費が潤沢にあり、研究に専念できる	47	75.8
5.治安が良い	49	79.0
6.給料が高い	20	32.3
7.日本人の上司、同僚、友人など人間関係に恵まれている	22	35.5
8.自分の望むポスト(職や地位)がある	4	6.5
9.能力に応じて昇進できるシステム(制度)がある	1	1.6
10.人事評価が公平である	3	4.8
11.上記以外	0	0.0
記入無	0	0.0

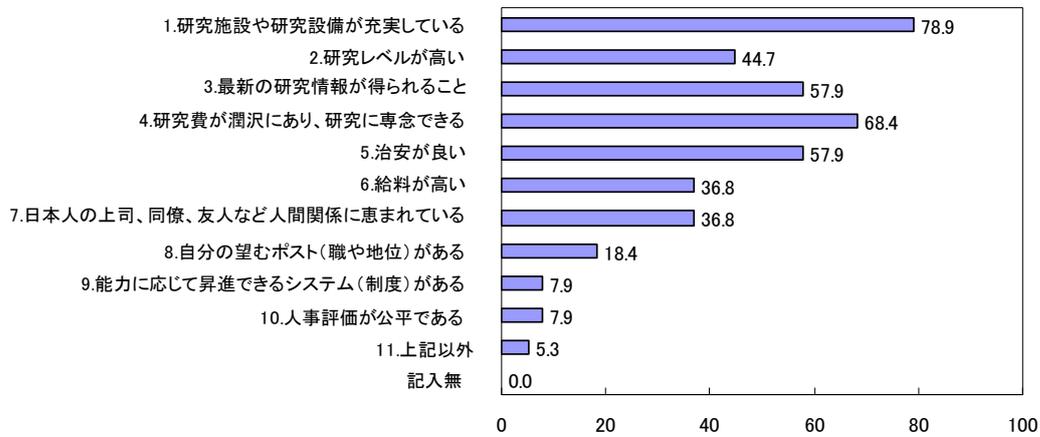
N=62



③ 中国人／40～49 歳

良いと感じられる点	有効回答数(人)	%
1.研究施設や研究設備が充実している	30	78.9
2.研究レベルが高い	17	44.7
3.最新の研究情報が得られること	22	57.9
4.研究費が潤沢にあり、研究に専念できる	26	68.4
5.治安が良い	22	57.9
6.給料が高い	14	36.8
7.日本人の上司、同僚、友人など人間関係に恵まれている	14	36.8
8.自分の望むポスト(職や地位)がある	7	18.4
9.能力に応じて昇進できるシステム(制度)がある	3	7.9
10.人事評価が公平である	3	7.9
11.上記以外	2	5.3
記入無	0	0.0

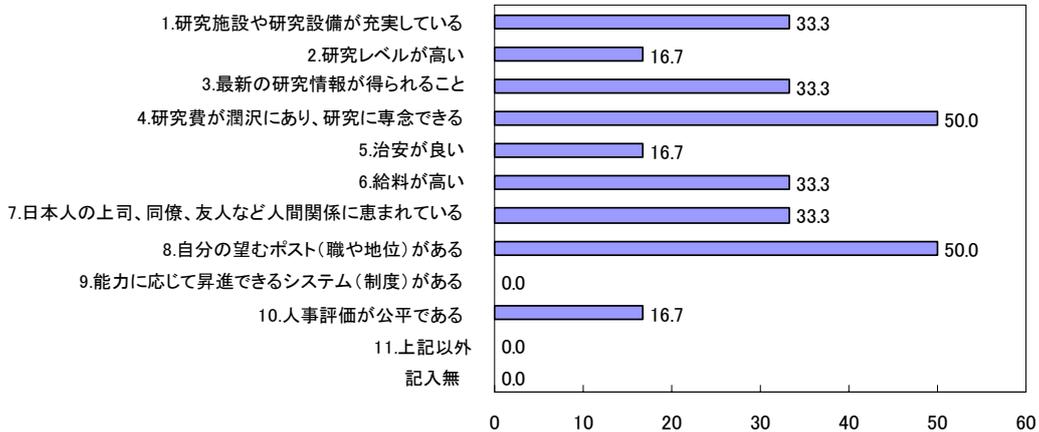
N=38



④ 中国人 / 50 歳以上

良いと感じられる点	有効回答数(人)	%
1. 研究施設や研究設備が充実している	2	33.3
2. 研究レベルが高い	1	16.7
3. 最新の研究情報が得られること	2	33.3
4. 研究費が潤沢にあり、研究に専念できる	3	50.0
5. 治安が良い	1	16.7
6. 給料が高い	2	33.3
7. 日本人の上司、同僚、友人など人間関係に恵まれている	2	33.3
8. 自分の望むポスト(職や地位)がある	3	50.0
9. 能力に応じて昇進できるシステム(制度)がある	0	0.0
10. 人事評価が公平である	1	16.7
11. 上記以外	0	0.0
記入無	0	0.0

N=6



2. 4 研究活動について負担に感じられる点

本節では、「日本での研究活動について負担に感じられる点」についてクロス分析を行った。複数選択方式の回答から、評価指標毎の回答分布をまとめると、以下のような結果が得られる。

a. 中国人科学技術人材全体を対象とした場合

最も多い回答は「日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる；60人(49.2%)」と「雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がる；60人(49.2%)」になり、次いで「日本での生活は、子供の教育面で不安がある；49人(40.2%)」、「活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い；46人(37.7%)」、「自分の希望するポストに、なかなか就くことができない；45人(36.9%)」、「配偶者の就業場所が、なかなか見つからない；41人(33.6%)」の順番となった。

b. 中国人科学技術人材で、年齢が「29歳以下」の人を対象とした場合

最も多い回答は「事務手続きが多く、外国人にとって分かりにくい；9人(69.2%)」となり、次いで「日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる；7人(53.8%)」、「活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い；6人(46.2%)」、「配偶者の就業場所が、なかなか見つからない；6人(46.2%)」の順番となった。

c. 中国人科学技術人材で、年齢が「30歳～39歳」の人を対象とした場合

最も多い回答は「雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がる；38人(61.3%)」となり、次いで「日本での生活は、子供の教育面で不安がある；32人(51.6%)」、「日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる；32人(51.6%)」、「活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い；26人(41.9%)」、「配偶者の就業場所が、なかなか見つからない；25人(40.3%)」、「自分の希望するポストに、なかなか就くことができない；25人(40.3%)」の順番となった。

d. 中国人科学技術人材で、年齢が「40歳～49歳」の人を対象とした場合

最も多い回答は「日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる；19人(50.0%)」となり、次いで「雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がる；18人(47.4%)」、「自分の希望するポストに、なかなか就くことができない；15人(39.5%)」、「日本での生活は、子供の教育面で不安がある；14人(36.8%)」の順番となった。

e. 中国人科学技術人材で、年齢が「50歳以上」の人を対象とした場合

最も多い回答は「活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い；2

人(33.3%)」「日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる；2人(33.3%)」となった。

「研究活動について負担に感じられる点」に関するクロス分析結果の詳細を、以下にまとめて示した。

設問：実際に日本での研究活動を行ってみて、負担に感じられる点は何ですか。以下の項目から選択してください。(該当する項目を全てチェック)

1. 活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い

2. 事務手続きが多く、外国人にとって分かりにくい

3. 雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がある

4. 競争的研究資金を獲得しようとしても、なかなかうまくいかない

5. 日本の生活習慣に、あまりなじめない

6. 日本での生活は、子供の教育面で不安がある

7. 配偶者の就業場所が、なかなか見つからない

8. 日本人の上司、同僚、友人などとの人間関係がうまくいかない

9. 滞在許可の事務手続きが煩雑で、分り難い

10. 生活費(物価)が高く、暮らし難い

11. 自分の希望するポストに、なかなか就くことができない

12. 日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる

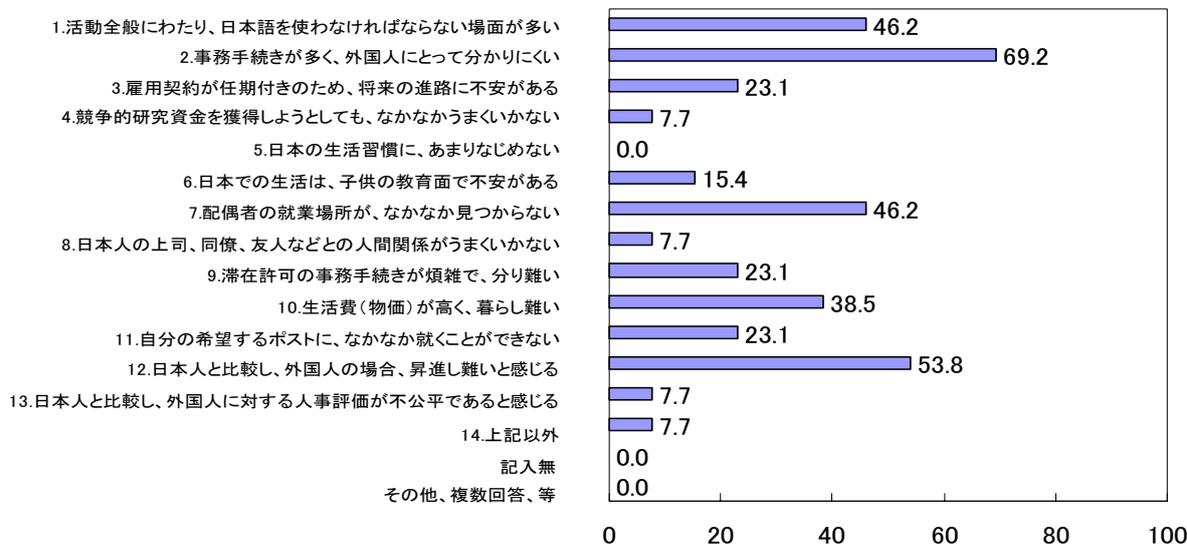
13. 日本人と比較し、外国人に対する人事評価が不公平であると感じる

14. 上記以外 記入：()

①中国人／29歳以下

負担に感じられる点	有効回答数(人)	%
1.活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い	6	46.2
2.事務手続きが多く、外国人にとって分かりにくい	9	69.2
3.雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がある	3	23.1
4.競争的研究資金を獲得しようとしても、なかなかうまくいかない	1	7.7
5.日本の生活習慣に、あまりなじめない	0	0.0
6.日本での生活は、子供の教育面で不安がある	2	15.4
7.配偶者の就業場所が、なかなか見つからない	6	46.2
8.日本人の上司、同僚、友人などとの人間関係がうまくいかない	1	7.7
9.滞在許可の事務手続きが煩雑で、分り難い	3	23.1
10.生活費(物価)が高く、暮らし難い	5	38.5
11.自分の希望するポストに、なかなか就くことができない	3	23.1
12.日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる	7	53.8
13.日本人と比較し、外国人に対する人事評価が不公平であると感じる	1	7.7
14.上記以外	1	7.7
記入無	0	0.0
その他、複数回答、等	0	0.0

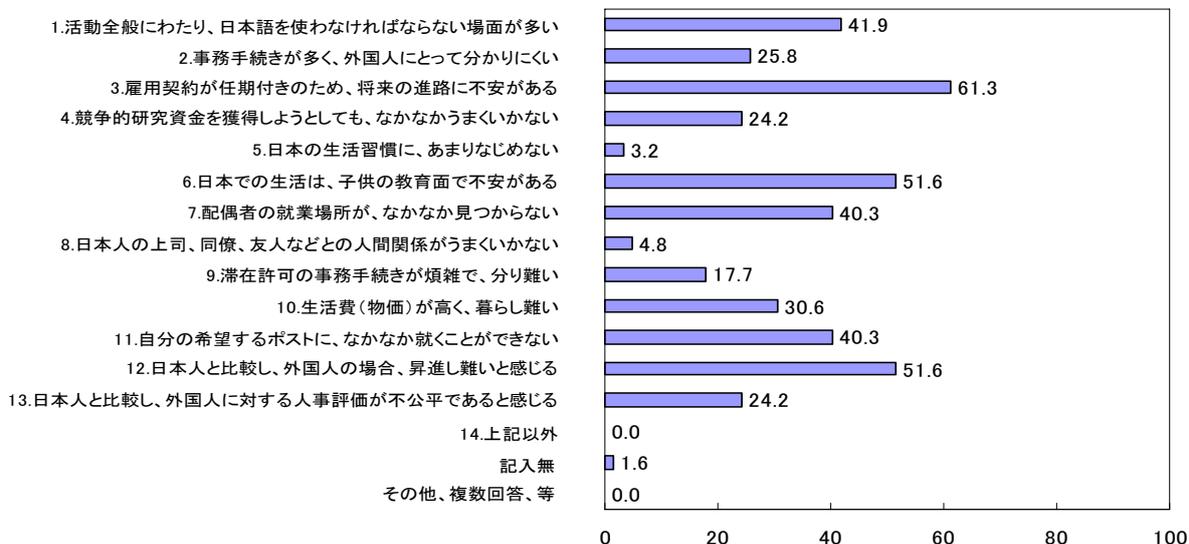
N=13



②中国人／30～39歳

負担に感じられる点	有効回答数(人)	%
1.活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い	26	41.9
2.事務手続きが多く、外国人にとって分かりにくい	16	25.8
3.雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がある	38	61.3
4.競争的研究資金を獲得しようとしても、なかなかうまくいかない	15	24.2
5.日本の生活習慣に、あまりなじめない	2	3.2
6.日本での生活は、子供の教育面で不安がある	32	51.6
7.配偶者の就業場所が、なかなか見つからない	25	40.3
8.日本人の上司、同僚、友人などとの人間関係がうまくいかない	3	4.8
9.滞在許可の事務手続きが煩雑で、分り難い	11	17.7
10.生活費(物価)が高く、暮らし難い	19	30.6
11.自分の希望するポストに、なかなか就くことができない	25	40.3
12.日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる	32	51.6
13.日本人と比較し、外国人に対する人事評価が不公平であると感じる	15	24.2
14.上記以外	0	0.0
記入無	1	1.6
その他、複数回答、等	0	0.0

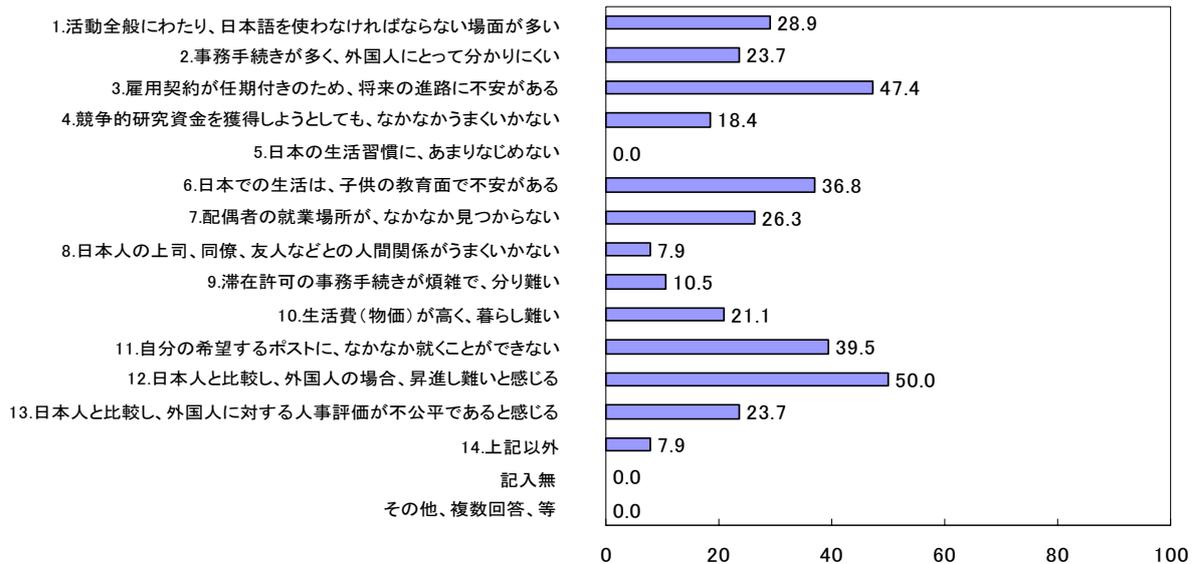
N=62



③ 中国人 / 40～49 歳

負担に感じられる点	有効回答数(人)	%
1.活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い	11	28.9
2.事務手続きが多く、外国人にとって分かりにくい	9	23.7
3.雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がある	18	47.4
4.競争的研究資金を獲得しようとしても、なかなかうまくいかない	7	18.4
5.日本の生活習慣に、あまりなじめない	0	0.0
6.日本での生活は、子供の教育面で不安がある	14	36.8
7.配偶者の就業場所が、なかなか見つからない	10	26.3
8.日本人の上司、同僚、友人などとの人間関係がうまくいかない	3	7.9
9.滞在許可の事務手続きが煩雑で、分り難い	4	10.5
10.生活費(物価)が高く、暮らし難い	8	21.1
11.自分の希望するポストに、なかなか就くことができない	15	39.5
12.日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる	19	50.0
13.日本人と比較し、外国人に対する人事評価が不公平であると感じる	9	23.7
14.上記以外	3	7.9
記入無	0	0.0
その他、複数回答、等	0	0.0

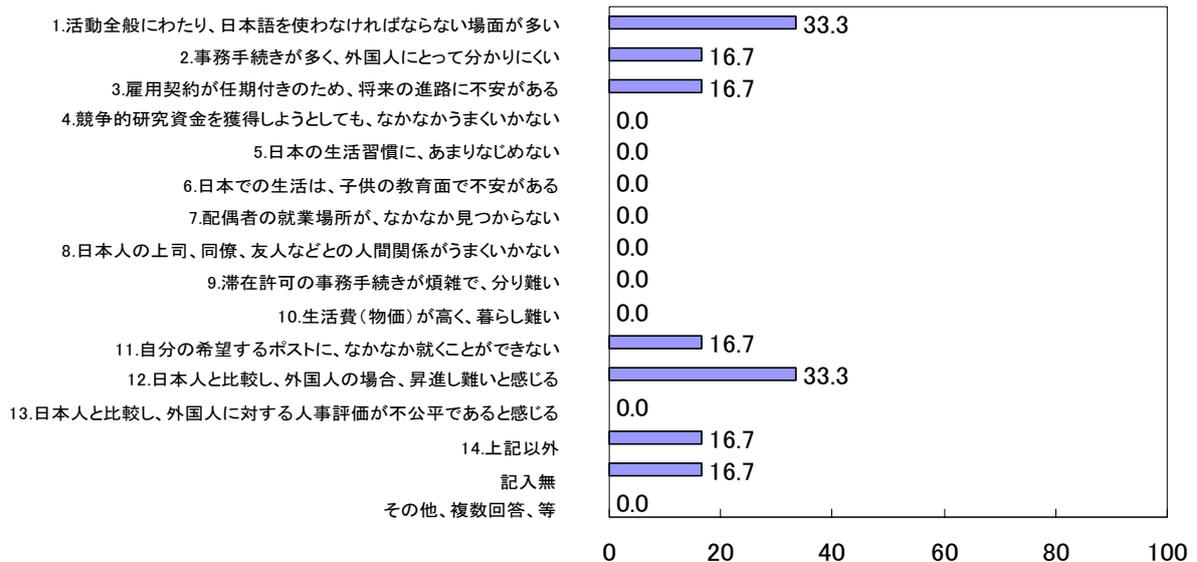
N=38



④ 中国人／50 歳以上

負担に感じられる点	有効回答数(人)	%
1.活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い	2	33.3
2.事務手続きが多く、外国人にとって分かりにくい	1	16.7
3.雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がある	1	16.7
4.競争的研究資金を獲得しようとしても、なかなかうまくいかない	0	0.0
5.日本の生活習慣に、あまりなじめない	0	0.0
6.日本での生活は、子供の教育面で不安がある	0	0.0
7.配偶者の就業場所が、なかなか見つからない	0	0.0
8.日本人の上司、同僚、友人などとの人間関係がうまくいかない	0	0.0
9.滞在許可の事務手続きが煩雑で、分り難い	0	0.0
10.生活費(物価)が高く、暮らし難い	0	0.0
11.自分の希望するポストに、なかなか就くことができない	1	16.7
12.日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる	2	33.3
13.日本人と比較し、外国人に対する人事評価が不公平であると感じる	0	0.0
14.上記以外	1	16.7
記入無	1	16.7
その他、複数回答、等	0	0.0

N=6



3. 出生地を評価指標としたクロス分析

第三に、「中国人科学技術人材」に加え、日本在住者の割合が中国人科学技術人材に次いで高い「韓国人科学技術人材」や「米国人科学技術人材」も対象とした追加アンケートを実施し、得られた回答をもとに「出生地」に基づく比較分析を行った。個人アンケートの場合と同様に、機関アンケートの中で「個別の協力に対する了解が得られた外国人科学技術人材」を対象とし、最終的に143人からの有効回答を得た。主なアンケート項目をまとめると、次のようになる。

＜外国人科学技術人材から見た日本の活動環境＞

- ・昇進の難易
- ・将来の進路
- ・子供の教育
- ・日本語の必要性
- ・配偶者の就業場所

その上で、上記のアンケート項目に従い、「出生地」と「役職」を組み合わせた以下の4つの指標を用い、グループ毎の回答に見られる特徴を把握した。

- ・評価指標①；「中国人科学技術人材」で、役職が「ポストドクター」に該当する人を対象とした場合
- ・評価指標②；「中国人科学技術人材」で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合
- ・評価指標③；「韓国人科学技術人材」で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合
- ・評価指標④；「米国人科学技術人材」で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合

3. 1 昇進の難易

外国人科学技術人材から見た日本の活動環境として、「日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる」という質問については、評価指標毎に、以下のような回答分布が得られた。

- a. 中国人科学技術人材で、役職が「ポストドクター」に該当する人を対象とした場合
有効回答者（24人）の内、自分にも当てはまるとの回答が15人（62.5%）、自分には当てはまらないとの回答が2人（8.3%）となった。
- b. 中国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合
有効回答者（71人）の内、自分にも当てはまるとの回答が26人（36.6%）、自分には当てはまらないとの回答が21人（29.6%）となった。
- c. 韓国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合
有効回答者（32人）の内、自分にも当てはまるとの回答が16人（50.0%）、自分には当てはまらないとの回答が9人（28.1%）となった。
- d. 米国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合
有効回答者（16人）の内、自分にも当てはまるとの回答が7人（43.8%）、自分には当てはまらないとの回答が8人（50.0%）となった。

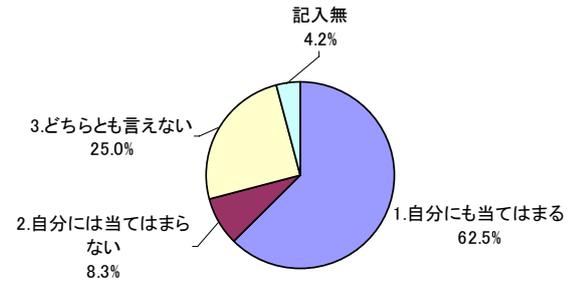
設問：日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる

- 1. 自分にも当てはまる
- 2. 自分には当てはまらない
- 3. どちらとも言えない

① 中国人／ポストドクター

	有効回答数(人)	%
1.自分にも当てはまる	15	62.5
2.自分には当てはまらない	2	8.3
3.どちらとも言えない	6	25.0
記入無	1	4.2
合計	24	100.0

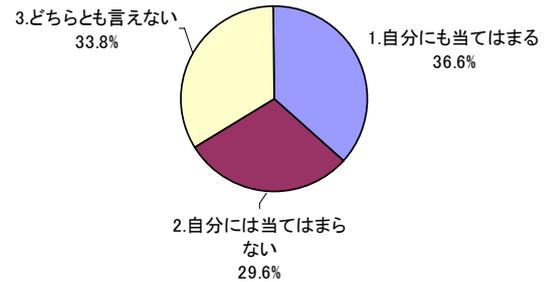
N=24



② 中国人／教授、助教授、講師、助手

	有効回答数(人)	%
1.自分にも当てはまる	26	36.6
2.自分には当てはまらない	21	29.6
3.どちらとも言えない	24	33.8
合計	71	100.0

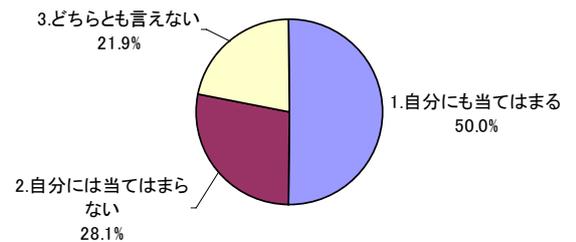
N=71



③ 韓国人／教授、助教授、講師、助手

	有効回答数(人)	%
1.自分にも当てはまる	16	50.0
2.自分には当てはまらない	9	28.1
3.どちらとも言えない	7	21.9
合計	32	100.0

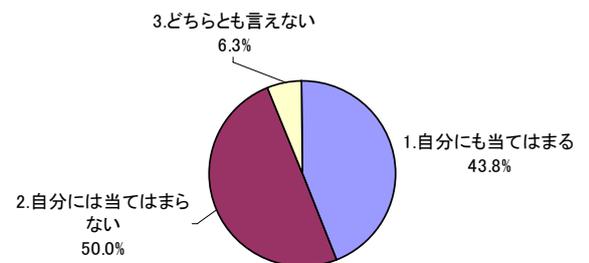
N=32



④ 米国人／教授、助教授、講師、助手

	有効回答数(人)	%
1.自分にも当てはまる	7	43.8
2.自分には当てはまらない	8	50.0
3.どちらとも言えない	1	6.3
合計	16	100.0

N=16



3. 2 将来の進路

外国人科学技術人材から見た日本の活動環境として、「雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がある」という質問については、評価指標毎に、以下のような回答分布が得られた。

- a. 中国人科学技術人材で、役職が「ポストドクター」に該当する人を対象とした場合
有効回答者（24人）の内、自分にも当てはまるとの回答が18人（75.0%）、自分には当てはまらないとの回答が2人（8.3%）となった。
- b. 中国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合
有効回答者（71人）の内、自分にも当てはまるとの回答が21人（29.6%）、自分には当てはまらないとの回答が35人（49.3%）となった。
- c. 韓国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合
有効回答者（32人）の内、自分にも当てはまるとの回答が10人（31.3%）、自分には当てはまらないとの回答が18人（56.3%）となった。
- d. 米国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合
有効回答者（16人）の内、自分にも当てはまるとの回答が4人（25.0%）、自分には当てはまらないとの回答が11人（68.8%）となった。

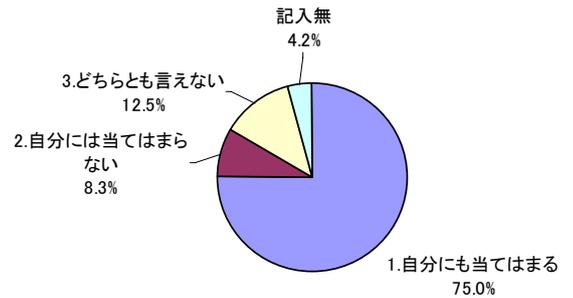
設問：雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がある

- 1. 自分にも当てはまる
- 2. 自分には当てはまらない
- 3. どちらとも言えない

① 中国人／ポストドクター

	有効回答数(人)	%
1.自分にも当てはまる	18	75.0
2.自分には当てはまらない	2	8.3
3.どちらとも言えない	3	12.5
記入無	1	4.2
合計	24	100.0

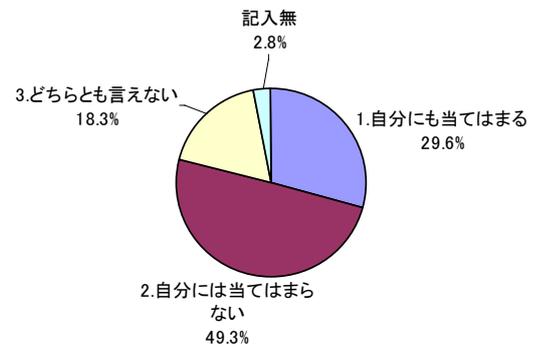
N=24



② 中国人／教授、助教授、講師、助手

	有効回答数(人)	%
1.自分にも当てはまる	21	29.6
2.自分には当てはまらない	35	49.3
3.どちらとも言えない	13	18.3
記入無	2	2.8
合計	71	100.0

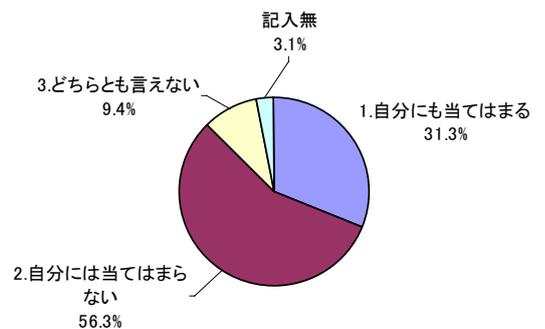
N=71



③ 韓国人／教授、助教授、講師、助手

	有効回答数(人)	%
1.自分にも当てはまる	10	31.3
2.自分には当てはまらない	18	56.3
3.どちらとも言えない	3	9.4
記入無	1	3.1
合計	32	100.0

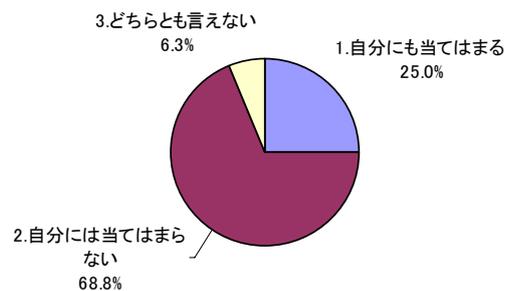
N=32



④ 米国人／教授、助教授、講師、助手

	有効回答数(人)	%
1.自分にも当てはまる	4	25.0
2.自分には当てはまらない	11	68.8
3.どちらとも言えない	1	6.3
合計	16	100.0

N=16



3. 3 子供の教育

外国人科学技術人材から見た日本の活動環境として、「日本での生活は、子供の教育面で不安がある」という質問については、評価指標毎に、以下のような回答分布が得られた。

- a. 中国人科学技術人材で、役職が「ポストドクター」に該当する人を対象とした場合
有効回答者（24人）の内、自分にも当てはまるとの回答が20人（83.3%）、自分には当てはまらないとの回答が1人（4.2%）となった。

- b. 中国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合
有効回答者（71人）の内、自分にも当てはまるとの回答が31人（43.7%）、自分には当てはまらないとの回答が25人（35.2%）となった。

- c. 韓国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合
有効回答者（32人）の内、自分にも当てはまるとの回答が14人（43.8%）、自分には当てはまらないとの回答が11人（34.4%）となった。

- d. 米国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合
有効回答者（16人）の内、自分にも当てはまるとの回答が9人（56.3%）、自分には当てはまらないとの回答が5人（31.3%）となった。

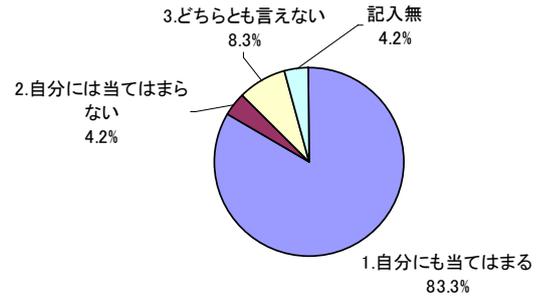
設問：日本での生活は、子供の教育面で不安がある

- 1. 自分にも当てはまる
- 2. 自分には当てはまらない
- 3. どちらとも言えない

① 中国人／ポストドクター

	有効回答数(人)	%
1.自分にも当てはまる	20	83.3
2.自分には当てはまらない	1	4.2
3.どちらとも言えない	2	8.3
記入無	1	4.2
合計	24	100.0

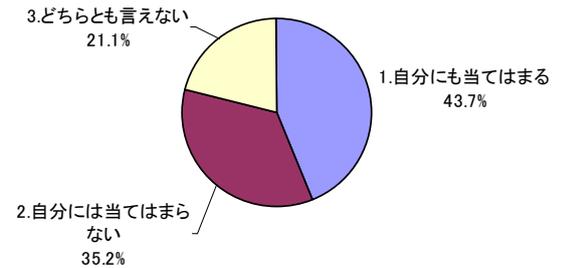
N=24



② 中国人／教授、助教授、講師、助手

	有効回答数(人)	%
1.自分にも当てはまる	31	43.7
2.自分には当てはまらない	25	35.2
3.どちらとも言えない	15	21.1
合計	71	100.0

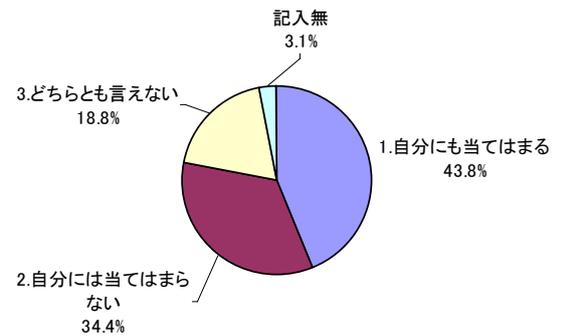
N=71



③ 韓国人／教授、助教授、講師、助手

	有効回答数(人)	%
1.自分にも当てはまる	14	43.8
2.自分には当てはまらない	11	34.4
3.どちらとも言えない	6	18.8
記入無	1	3.1
合計	32	100.0

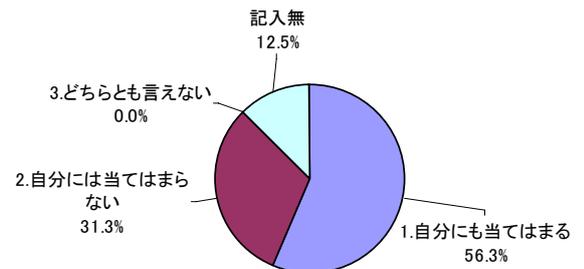
N=32



④ 米国人／教授、助教授、講師、助手

	有効回答数(人)	%
1.自分にも当てはまる	9	56.3
2.自分には当てはまらない	5	31.3
3.どちらとも言えない	0	0.0
記入無	2	12.5
合計	16	100.0

N=16



3. 4 日本語の必要性

外国人科学技術人材から見た日本の活動環境として、「活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い」という質問については、評価指標毎に、以下のような回答分布が得られた。

- a. 中国人科学技術人材で、役職が「ポストドクター」に該当する人を対象とした場合
有効回答者（24人）の内、自分にも当てはまるとの回答が18人（75.0%）、自分には当てはまらないとの回答が3人（12.5%）となった。

- b. 中国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合
有効回答者（71人）の内、自分にも当てはまるとの回答が50人（70.4%）、自分には当てはまらないとの回答が14人（19.7%）となった。

- c. 韓国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合
有効回答者（32人）の内、自分にも当てはまるとの回答が27人（84.4%）、自分には当てはまらないとの回答が3人（9.4%）となった。

- d. 米国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合
有効回答者（16人）の内、自分にも当てはまるとの回答が11人（68.8%）、自分には当てはまらないとの回答が1人（6.3%）となった。

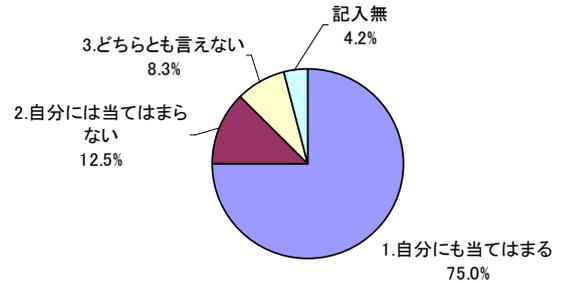
設問：活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い

- 1. 自分にも当てはまる
- 2. 自分には当てはまらない
- 3. どちらとも言えない

① 中国人／ポストドクター

	有効回答数(人)	%
1.自分にも当てはまる	18	75.0
2.自分には当てはまらない	3	12.5
3.どちらとも言えない	2	8.3
記入無	1	4.2
合計	24	100.0

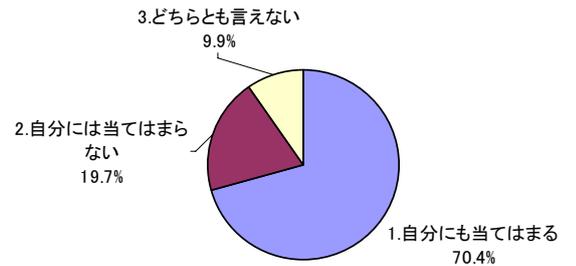
N=24



② 中国人／教授、助教授、講師、助手

	有効回答数(人)	%
1.自分にも当てはまる	50	70.4
2.自分には当てはまらない	14	19.7
3.どちらとも言えない	7	9.9
合計	71	100.0

N=71



③ 韓国人／教授、助教授、講師、助手

	有効回答数(人)	%
1.自分にも当てはまる	27	84.4
2.自分には当てはまらない	3	9.4
3.どちらとも言えない	2	6.3
合計	32	100.0

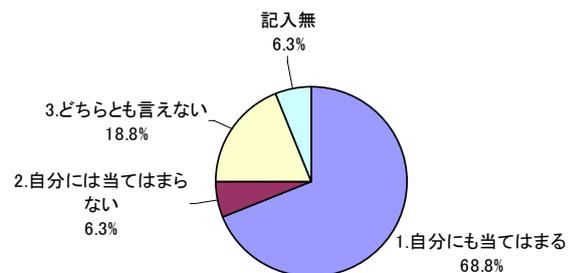
N=32



④ 米国人／教授、助教授、講師、助手

	有効回答数(人)	%
1.自分にも当てはまる	11	68.8
2.自分には当てはまらない	1	6.3
3.どちらとも言えない	3	18.8
記入無	1	6.3
合計	16	100.0

N=16



3. 5 配偶者の就業場所

外国人科学技術人材から見た日本の活動環境として、「配偶者の就業場所が、なかなか見つからない」という質問については、評価指標毎に、以下のような回答分布が得られた。

- a. 中国人科学技術人材で、役職が「ポストドクター」に該当する人を対象とした場合
有効回答者（24人）の内、自分にも当てはまるとの回答が8人（33.3%）、自分には当てはまらないとの回答が9人（37.5%）となった。
- b. 中国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合
有効回答者（71人）の内、自分にも当てはまるとの回答が31人（43.7%）、自分には当てはまらないとの回答が27人（38.0%）となった。
- c. 韓国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合
有効回答者（32人）の内、自分にも当てはまるとの回答が7人（21.9%）、自分には当てはまらないとの回答が13人（40.6%）となった。
- d. 米国人科学技術人材で、役職が「教授、助教授、講師、助手」のいずれかに該当する人を対象とした場合
有効回答者（16人）の内、自分にも当てはまるとの回答が2人（12.5%）、自分には当てはまらないとの回答が12人（75.0%）となった。

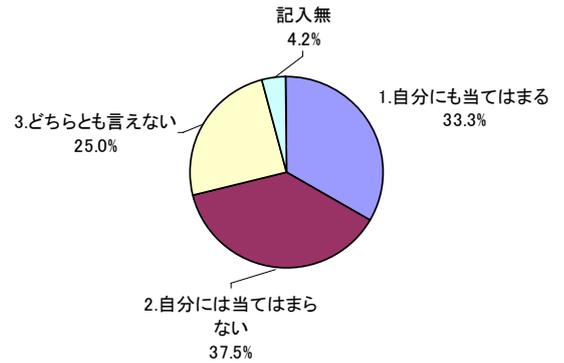
設問：配偶者の就業場所が、なかなか見つからない

- 1. 自分にも当てはまる
- 2. 自分には当てはまらない
- 3. どちらとも言えない

① 中国人／ポストドクター

	有効回答数(人)	%
1.自分にも当てはまる	8	33.3
2.自分には当てはまらない	9	37.5
3.どちらとも言えない	6	25.0
記入無	1	4.2
合計	24	100.0

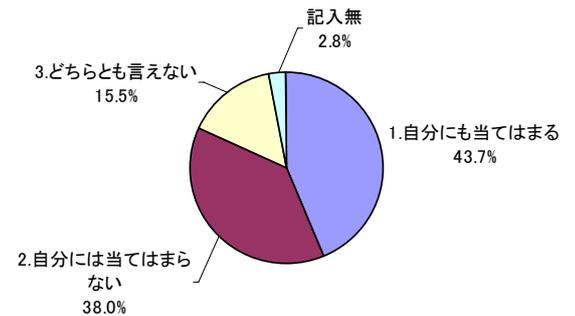
N=24



② 中国人／教授、助教授、講師、助手

	有効回答数(人)	%
1.自分にも当てはまる	31	43.7
2.自分には当てはまらない	27	38.0
3.どちらとも言えない	11	15.5
記入無	2	2.8
合計	71	100.0

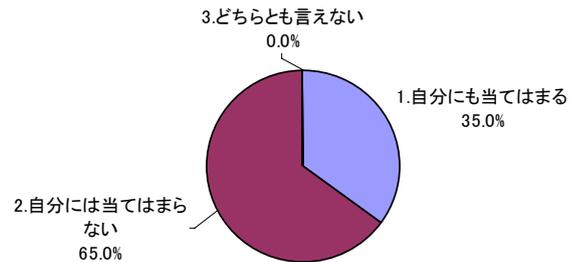
N=31



③ 韓国人／教授、助教授、講師、助手

	有効回答数(人)	%
1.自分にも当てはまる	7	21.9
2.自分には当てはまらない	13	40.6
3.どちらとも言えない	12	37.5
合計	32	62.5

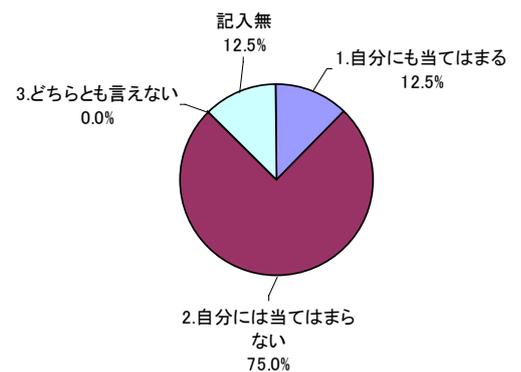
N=32



④ 米国人／教授、助教授、講師、助手

	有効回答数(人)	%
1.自分にも当てはまる	2	12.5
2.自分には当てはまらない	12	75.0
3.どちらとも言えない	0	0.0
記入無	2	12.5
合計	16	100.0

N=16



第6章 活動実態の総合評価

前章までの「役職、性別を評価指標としたクロス分析」、「年齢を評価指標としたクロス分析」、関連データ等を総合することで、「日本における中国人科学技術人材の活躍状況」を把握するための基盤データを構築した。注目すべきポイントをまとめると、次のようになる。

1. 基盤データとしてのポイント

a. 日本を第一に志望した人材

(1) 中国人科学技術人材全体として捉えると、以下の結果が得られる。

- ・日本での研究活動を選択した中国人科学技術人材の過半は、海外での研究活動を行う場合の第一志望国が日本であったものと推定される。

(2) 一方、「役職」に着目すると、以下の結果が得られる。

- ・日本を第一に志望した人の割合は、「教授、助教授、講師、助手」に比べ、「ポストドクター」の方が低い。

(3) さらに、「年齢」に着目すると、以下の結果が得られる。

- ・日本を第一に志望した人の割合は、他の世代に比べ、「30歳代」の方が低い。

(4) 上記より、「日本を第一に志望した人材」について、以下の特徴が導き出される。

- ・中国人科学技術人材全体としては、日本を第一に志望した人材が過半を占める。
- ・ただし、役職が「ポストドクター」、あるいは年齢が「30歳代」のケースでは、その割合が大きく低下する。

b. 日本での研究活動を選択した理由

(1) 中国人科学技術人材全体として捉えると、以下の結果が得られる。

- ・日本を選択した理由としては、「研究施設や研究設備が充実しているため」「対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高いため」「文化的に親しみがもてるため」が上位を占める。

(2) 一方、「役職」に着目すると、以下の結果が得られる。

- ・「ポストドクター」の場合、「自国での指導教官や上司から推薦されたため」という回答が最も多くなる。

(3) さらに、「年齢」に着目すると、以下の結果が得られる。

- ・「30歳代」の場合、他の世代ではほとんど見られない「申し込みに対する日本からの返答が早かったため」という回答が20%を超える。

(4) 上記より、「日本での研究活動を選択した理由」について、以下の特徴が導き出される。

- ・役職や年齢に拠らず、「研究施設や研究設備が充実しているため」「対象とする研究分野において、日本の研究レベルが高いため」「文化的に親しみがもてるため」の3つが、日本を選択した主な理由となっている。
- ・加えて、「ポストドクター」のケースでは「自国での指導教官や上司から推薦されたこと」が、年齢が「30歳代」のケースでは「申し込みに対する日本からの返答が早かったこと」が、もう一つの理由となっている。

c. 研究活動の契機となった制度や仕組み

(1) 中国人科学技術人材全体として捉えると、以下の結果が得られる。

- ・日本での研究活動の契機となった制度や仕組みとして、「日本機関からの研究ポスト等の提供」が大きな役割を果たしている。

- ・これに次ぐ役割を果たしている仕組みとして、「私費留学（来日前には日本での奨学金を取得せず）」と「国費留学」が挙げられる。

(2) 一方、「役職」に着目すると、以下の結果が得られる。

- ・「日本機関からの研究ポスト等の提供」という回答の割合は、「教授、助教授、駆講師、助手」に比べ、「ポストドクター」の方が圧倒的に高い。

(3) さらに、「年齢」に着目すると、以下の結果が得られる。

- ・「日本機関からの研究ポスト等の提供」という回答の割合は、「40歳代」に比べ、「30歳代」の方がかなり高い。

(4) 上記より、「日本での研究活動を選択した理由」について、以下の特徴が導き出される。

- ・日本での研究活動の契機となった制度や仕組みとして、「日本機関からの研究ポスト等の提供」が大きな役割を果たしている。
- ・特に、「ポストドクター」のケースでは、「日本機関からの研究ポスト等の提供」が顕著な効果を発揮している。

d. 研究活動について良いと感じられる点

(1) 中国人科学技術人材全体として捉えると、以下の結果が得られる。

- ・「研究施設や研究設備が充実している」「研究費が潤沢にあり、研究に専念できる」点を良いと感じている人が多い。
- ・このほか、「治安が良い」「最新の研究情報が得られること」「研究レベルが高い」「日本人の上司、同僚、友人など人間関係に恵まれている」「自分の望むポスト(職や地位)がある」点を良いと感じている人がかなり見られる。

(2) 同様に、「役職」に着目した場合も、以下の結果が得られる。

- ・「研究施設や研究設備が充実している」「研究費が潤沢にあり、研究に専念できる」点を良いと感じている人が多い。

(3) また、「年齢」に着目した場合も、以下の結果が得られる。

- ・「研究施設や研究設備が充実している」「研究費が潤沢にあり、研究に専念できる」点を良いと感じている人が多い。

(4) 上記より、「日本での研究活動について良いと感じられる点」について、以下の特徴が導き出される。

- ・役職や年齢に拠らず、「研究施設や研究設備が充実している」「研究費が潤沢にあり、研究に専念できる」点を、特に良いと感じている。

e. 研究活動について負担に感じられる点

(1) 中国人科学技術人材全体として捉えると、以下の結果が得られる。

- ・「日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる」「雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がある」「事務手続きが多く、外国人にとって分かりにくい」という回答が多い。
- ・このほか、「日本での生活は、子供の教育面で不安がある」「自分の希望するポストに、なかなか就くことができない」「活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い」「配偶者の就業場所が、なかなか見つからない」などの回答がかなり見られる。

(2) 一方、「役職」に着目すると、以下の結果が得られる。

- ・「ポストドクター」の場合、上記に加え、「活動全般に渡り、日本語を使わなければならない場面が多い」という回答が多くなっている。

(3) さらに、「年齢」に着目すると、以下の結果が得られる。

- ・「40 歳代」に比べ、「30 歳代」の方が、ほとんどの項目について「負担に感じられる」という回答の割合が高くなっている。

(4) 上記より、「日本での研究活動を選択した理由」について、以下の特徴が導き出される。

- ・「日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる」「雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がある」「事務手続きが多く、外国人にとって分かりにくい」という点を負担に感じている人が多い。
- ・「ポストドクター」の場合、上記に加え、「活動全般に渡り、日本語を使わなければならない場面が多い」ことが大きな負担となっている。

2. 基盤データとしての妥当性

以上の内容は、前章にまとめた「出生地を評価指標としたクロス分析」から、韓国人科学技術人材や米国人科学技術人材のケースでも、同様の特徴が見られることが分かる。

- ①韓国人科学技術人材、米国人科学技術人材のいずれにおいても、日本での研究活動について負担に感じられる点として、「日本人と比較し、外国人の場合、昇進し難いと感じる」ことを、中国人科学技術人材と同程度に認識している。
- ②韓国人科学技術人材、米国人科学技術人材のいずれにおいても、日本での研究活動について負担に感じられる点として、「雇用契約が任期付きのため、将来の進路に不安がある」ことを、中国人科学技術人材と同程度に認識している。
- ③韓国人科学技術人材、米国人科学技術人材のいずれにおいても、日本での研究活動について負担に感じられる点として、「日本での生活は、子供の教育面で不安がある」ことを、中国人科学技術人材と同程度に認識している。
- ④韓国人科学技術人材、米国人科学技術人材のいずれにおいても、日本での研究活動について負担に感じられる点として、「活動全般にわたり、日本語を使わなければならない場面が多い」ことを、中国人科学技術人材と同程度に認識している。

- ⑤韓国人科学技術人材の場合、日本での研究活動について負担に感じられる点として、「配偶者の就業場所が、なかなか見つからない」ことを、中国人科学技術人材と同程度に認識している。

以上の比較検証から、取りまとめた基盤データの妥当性が裏付けられる。

あとがき

本報告書は、独立行政法人科学技術振興機構中国総合研究センターが、「JST・NISTEP・GRIPS ジョイントプログラム：アジアの科学技術政策動向に関する調査研究」の一環として、「日本における中国科学技術人材の活躍状況に関する調査」の成果を編集したものである。本調査を実施したプロジェクトメンバーは以下の通りである。

- ・ 主担当機関 政策研究大学院大学
 角南 篤 准教授

- ・ 協力担当機関 文部科学省科学技術政策研究所
 今井 寛 第1 調査研究グループ 総括上席研究官(平成 18 年 6 月まで)
 筑波大学大学研究センター 教授(平成 18 年 7 月から)
 治部 眞里 第1 調査研究グループ 上席研究官

- ・ 協力担当機関 株式会社日本総合研究所
 金子 直哉 創発戦略センター 上席主任研究員
 王 婷 創発戦略センター 研究員(平成 18 年 5 月まで)
 創発戦略センター 副主任研究員(平成 18 年 6 月から)
 金原 健一 創発戦略センター 主任研究員(平成 17 年 8 月まで)
 岡山 純子 研究事業本部 研究員(平成 17 年 12 月まで)
 井関 貴資 研究事業本部 副主任研究員(平成 17 年 12 月から)

編集者：

- 角南 篤 政策研究大学院大学准教授、中国総合研究センター 副センター長
- 今井 寛 筑波大学大学研究センター教授、中国総合研究センター
 特任フェロー
- 趙 晋平 中国総合研究センター アソシエイトフェロー
- 岡山 純子 中国総合研究センター アソシエイトフェロー

日本における中国科学技術人材の活躍状況調査報告書

独立行政法人 科学技術振興機構 中国総合研究センター

平成 19 年 11 月

〒102-0084 東京都千代田区二番町 3 番地

電話 03-5214-7556

ファクス 03-5214-7385

<http://crds.jst.go.jp/CRC/>